佐久市埋蔵文化財調査報告書　第２６４集

20
第264集
前田遺跡群　前田遺跡Ⅵ
佐久市教育委員会

前田遺跡群
MAEDA
前田遺跡Ⅵ

長野県佐久市小田井前田遺跡Ⅵ発掘調査報告書

2020.3
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第２６４集

前田遺跡群

MAEDA

前田遺跡Ⅵ

長野県佐久市小田井前田遺跡Ⅵ発掘調査報告書

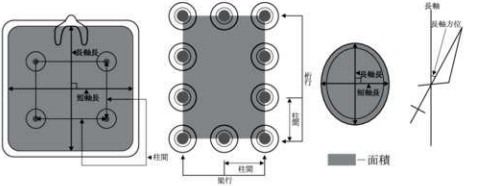
2020.3
佐久市教育委員会

例　言

1　本書は長野県佐久市に所在する前田遺跡群前田遺跡第６次調査の発掘調査報告書である。
2　調査は株式会社オートメカ・エフケイが行う工場新築工事に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
3　遺跡名及び所在地　　前田遺跡群前田遺跡Ⅵ（OIMⅥ）
　　佐久市小田井字前田329-1、332、333-1、343-5
4　調査期間及び面積　　発掘調査：平成30年11月15日～12月11日
　　整　　理：平成30年12月11日～令和２年３月31日
　　調査面積：1,063.67㎡
5　本書に掲載した地図は佐久市役所発行の地形図（1：50,000）である。
6　遺構測量はTSを用い３次元データを取得した。取得したデータは株式会社CUBICの「遺構君」により図化した。図面トレースは「遺構君」で行い、Adobe Illustratorで調整した。写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し Adobe Photoshopで補正等を行った。編集は Adobe InDesignで行った。
7　本書の作成・編集は小林が行った。
8　本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

1　挿図の縮尺は遺構 1/80、遺物 1/4（鉄器・鉄製品は 1/2）を基本とするが、これ以外の物は図中に縮尺を記した。
2　海抜標高は、水糸標高をスケールに「標高」として記してある。また、土色の色調は 1999年版「新版標準土色帖」に基づいた。



竪穴住居址　　掘立柱建物址　　土坑　　長軸方位

3　調査区グリットは公共座標の区割りに従い、間隔は４ｍ×４ｍで設定した。
4　遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。
5　挿図中の網掛けは以下の表現である。

目　次

例言
凡例
目次

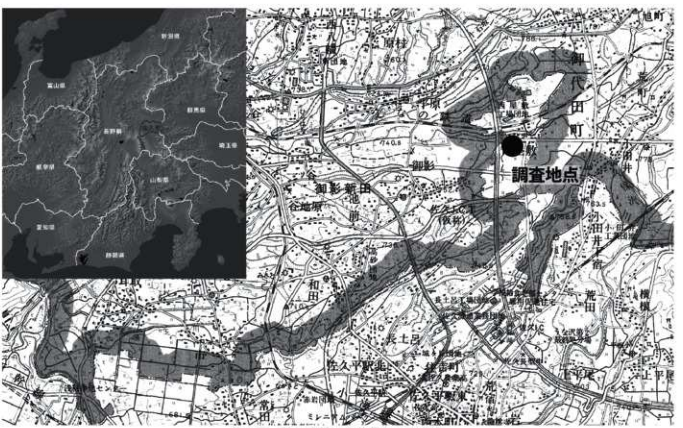
第Ⅰ章　調査の経緯 …… 1
第1節　経過と立地 …… 1
第2節　調査体制 …… 2
第3節　検出遺構・遺物の概要 …… 2
第Ⅱ章　遺構と遺物 …… 2
第1節　住居址 …… 2
第2節　掘立柱建物址 …… 12
第3節　土坑 …… 13
第4節　ピット …… 13
第5節　黒色帯 …… 14
第6節　遺構外・試掘出土遺物 …… 15
第Ⅲ章　まとめ …… 21
表
図版
抄録
奥付

調査風景

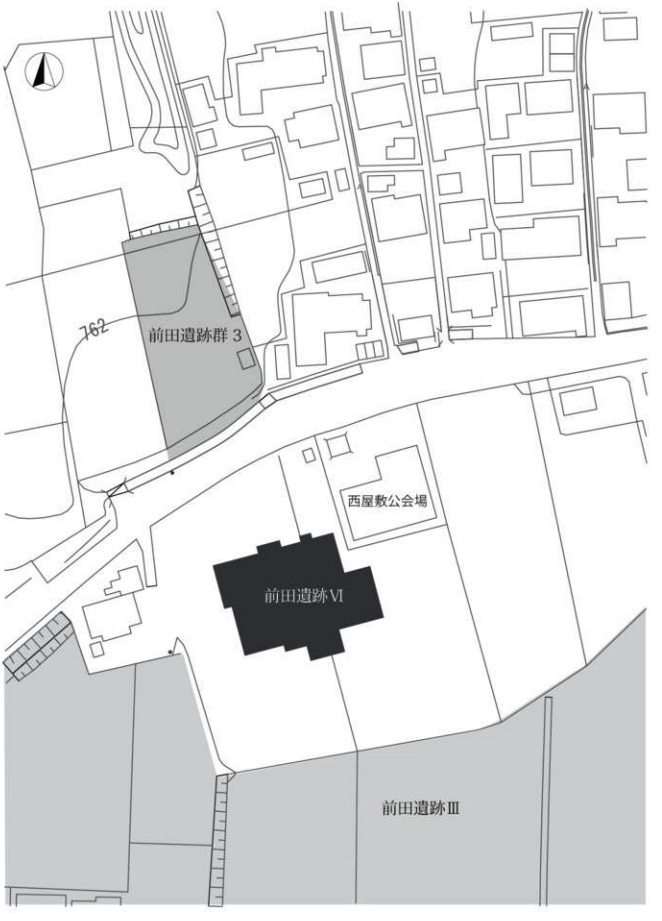
第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第1節　経過と立地

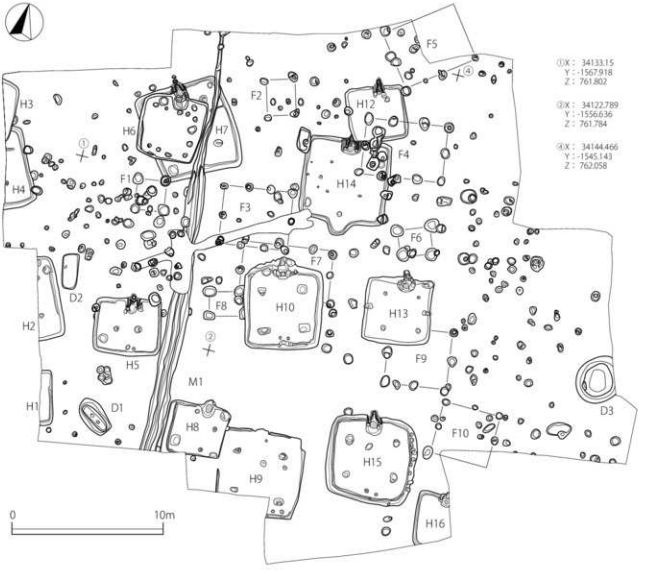
前田遺跡Ⅵは佐久市小田井字前田地籍に所在する。遺跡は南北を田切に挟まれた、小諸市や御代田町との行政境が錯綜する標高760m前後の広大な台地の北縁近くに立地する。遺跡内では過去に、佐久市教育委員会による5次に及ぶ発掘調査と、中部横断自動車道建設に伴う長野県埋蔵文化財セ



第1図　前田遺跡Ⅵの位置（1：50,000）



第２図　調査範囲(1：1,000)



第 3 図　前田遺跡 VI 全体図 (1：250)

前田遺跡 VI 全景 (南から)

ンターの発掘調査、圃場整備に伴う調査が小諸市教育委員会、御代田町教育委員会で行われている。何れの調査に於いても数多くの遺構・遺物が検出されている。時期的に主体をなすのは古墳時代後期から平安時代、中世であるが、特に奈良時代の遺構・遺物は充実しており、佐久地域の概期の土器編年は、堤隆により当遺跡出土資料（御代田町分）により構築されたものである。また、長野県埋蔵文化財センターによる宮ノ反A遺跡の調査では、佐久地方唯一の古代官衙跡が発見された。小諸市の宮ノ反A遺跡群竹花遺跡から出土した漆紙文書や佐久市前田遺跡出土の唐三彩陶枕片、和銅開珎、円面硯、帯金具や野火附遺跡の埋葬馬の存在などから一帯を古代の「駅」とその関連施設として捉える見解が近年の大勢となってきた。

今回、遺跡内で株式会社オートメカ・エフケイにより工場新築工事が計画されたことから、遺跡の保護を目的とし、状況を把握するための試掘調査を平成 30 年 10 月 22・23 日に実施した。その結果、住居址等の遺構が検出されたため、遺構の破壊が予測される建物箇所について記録保存を目的とした発掘調査を行うこととなった。なお、その他の部分については埋土保存とした。

第 2 節　調査体制

平成 30・31(2019) 年度

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	櫻澤晴樹
事務局	社会教育部	部長	青木　源
	文化振興課	課長	小林義夫 (2019 年 3 月まで)
			東城　洋 (2019 年 4 月から)
		企画幹	武者新一 (2019 年 3 月まで)
			吉田　晃 (2019 年 4 月から)
	文化財調査係	係長	塩川宏幸 (2019 年 3 月まで)
			山本秀典 (2019 年 4 月から)
		係	小林眞寿　富沢一明　上原　学　久保浩一郎
			岩下　琴（2018 年 6 月まで）
			荻原義治（2018 年 7 月から 2019 年 3 月まで）
			羽毛田卓也 (2019 年 4 月から)
		臨時職員	森泉かよ子 (2019 年 3 月まで)
		調査担当者	小林眞寿
		調査員	赤羽根篤　浅沼勝男　甘利隆雄　岩松茂年　大矢志麟
			木内修一　小林喜久子　小林節子　小林敏雄　堺　益子
			清水律子　田中ひさ子　中澤　登　羽毛田利明　花岡美津子
			細谷秀子　堀籠滋子　宮川真紀子　山口ひとみ　柳澤孝子
			柳沢千賀子　山田叔正　油井満芳　横尾敏雄　依田好行

第 3 節　検出遺構・遺物の概要

遺構　竪穴住居址 16 軒　掘立柱建物址 10 棟　土坑 3 基　溝址 1 条　ピット 236 基
遺物　土師器　須恵器　石器・石製品　鉄器　獣骨

第Ⅱ章　遺構と遺物

第 1 節　住居址

●Ｈ１号住居址（第４図）

調査区西南端で検出された。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。他遺構との重複関係は有さない。主軸をＮ－ 16°－Ｗにとり、長軸長 3.64 m、壁残高 0.36 m の規模であった。検出範囲にはカマドや柱穴は存在しなかった。北東隅を除く壁下には周溝が巡っている。北東隅の掘方からは土坑が 1 基検出された。

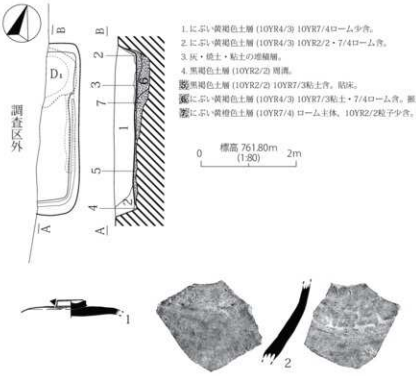
遺物は須恵器が２点出土した。１は坏蓋、２は甕の体部である。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅱ期に該当し、８世紀第Ⅱ四半期の実年代が想定される。

●Ｈ２号住居址（第５図）

調査区西端中央付近で検出された。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。他遺構との重複関係は有さない。主軸をＮ－25.3°－Ｗにとり、長軸長 5.45 m、壁残高 0.47 m の規模である。検出範囲にはカマドは存在しなかった。東壁下の中央付近にだけ周溝が存在した。ピットは床面及び掘方から５基検出されが、主柱は判然としない。

遺物は土師器が出土している。器種的には、坏（1・2）、鉢（3）、甕（4 ～ 6）の器種が存在する。坏は２点共に北武蔵型であり、内面ナデ、外面にはヘラケズリ調整が施される。鉢は内面がヘラミガキ・黒色処理、外面にはヘラケズリ調整が施されている。甕は４・６が武蔵甕、５は外面ヘラケズリ調整の長胴甕である。



第４図　Ｈ１号住居址

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅰ期に該当し、８世紀第Ⅰ四半期の実年代が想定される。

●Ｈ３号住居址（第６図）

調査区西北端部で検出された。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。H4 号住居址を切っている。検出範囲にはカマドやピット、周溝は存在しなかった。壁残高 0.4m 以外の規模は不明である。

遺物は須恵器が出土している。器種的には坏（1 ～ 3）、甕（4）、壺（5）が認められる。坏のロクロからの切り離し方法は、３点全てが回転糸切である。３は外面に火襷が認めれる。また、２は「杓状坏」である。甕は肩部分の破片であり、内面に当具痕、外面には平行叩目が残されている。５の壺は小型の長頸壺で、ロクロから回転糸切で切り離した後、回転ヘラケズリ調整を行い、高台を付している。口縁部が部分的に欠損するものの、ほぼ完形である。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅴ期に該当し、９世紀前半の実年代が想定される。

●Ｈ４号住居址（第７図）

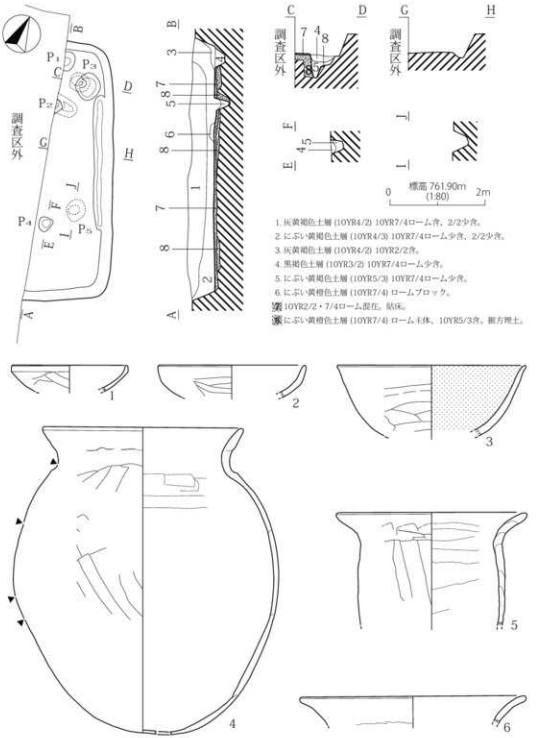
調査区西北端部で検出された。西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。H3 号住居址・P11・P43 に切られ、主軸をＮ－ 27°－Ｗにとり、長軸長 5.35 m、壁残高 0.51 m の規模であった。検出範囲にはカマドは存在しなかった。壁下には周溝が巡り、主柱穴に連結すると思われる間仕切溝が認められた。ピットは主柱穴と思われる P1 が１基検出され、φ 14cmの柱痕が確認された。

遺物は土師器と須恵器が出土している。土師器には、坏（1 ～ 4）、壺（5）の器種が認められる。坏１は所謂「北武蔵型坏」である。４は内面見込みに放射状の暗文が描出されている。壺は底部のみの破片である。須恵器は２点共に坏の小破片であり、受部を有する形態である。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の古墳時代Ⅳ期に該当し、７世紀代の実年代が想定される。

●Ｈ５号住居址（第８図）

調査区西側で H2 号住居址の東隣りに検出された。東側には M1 号溝址が走っている。P3・P8・P13 に切られる。主軸をＮ－ 10°－Ｗにとり、長軸長 4.43 m、短軸長 3.71 m、壁残高 0.56 m の規模である。主軸は短軸である。カマドは北壁の中央東寄りに石芯を粘土で被覆して構築されていた。カマドと南壁下中央部分を除く壁下には周溝が巡る。主柱は２本であり、P1・P2 が該当する。P1 からはφ 11cmの柱痕が確認された。南壁下中央部分の、壁下に周溝が認められない部分は出入口であり、P4・P5 が階段ないし梯子の桁穴である。西壁下の掘方から、



第５図　Ｈ２号住居址

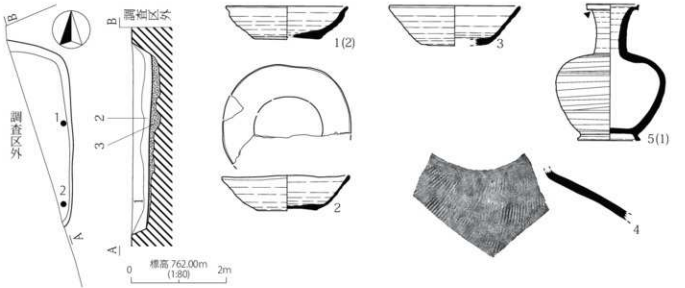
細長い長方形の土坑が検出されたが性格は不明である。

遺物は土師器、須恵器、石器・石製品、鉄器が出土した。土師器には高坏（1）、甕（2～4）、壺（5･6）の器種が認められる。高坏は脚部のみの破片である。甕は３・４が長胴甕、２は武蔵甕化の傾向が看取されるヘラケズリ調整の丸胴の甕である。壺５は球胴のヘラミガキ調整のもの、６はあまり顕著な球胴ではないヘラケズリ調整のものである。須恵器には坏（7）、有台坏（8）、高坏（9）の器種が認められる。坏はヘラ切、ヘラケズリ調整、有台坏は高台が底部と体部の変換点に貼付される。高坏は脚に横位１条の沈線が巡るほかは無文である。石器・石製品は２点共に軽石製 (10･11) である。鉄器は片刃箭の鏃 (12) である。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅰ期に該当し、８世紀第Ⅰ四半期の実年代が想定される。

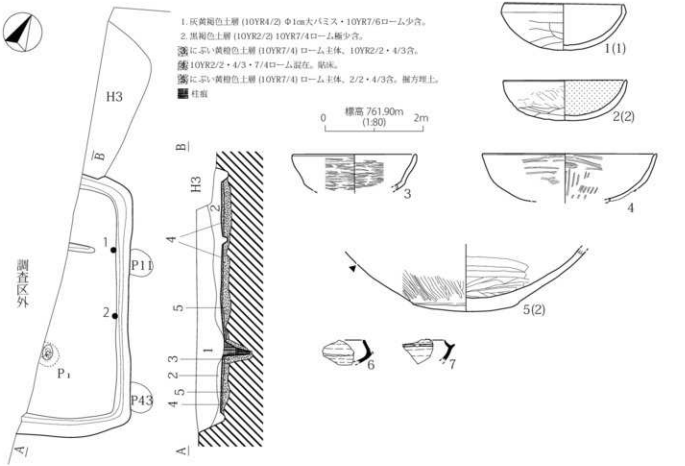
●Ｈ６号住居址（第９図）

調査区北端中央部分からやや西寄りで検出された。H7 号住居址を切り、M1 号溝址に切られる。主軸をＮ－0°－Ｗにとり、長軸長 4.36 m、短軸長 4.28 m、壁残高 0.25 m、面積 14.6㎡の規模であった。P1 ～ P4 の 4

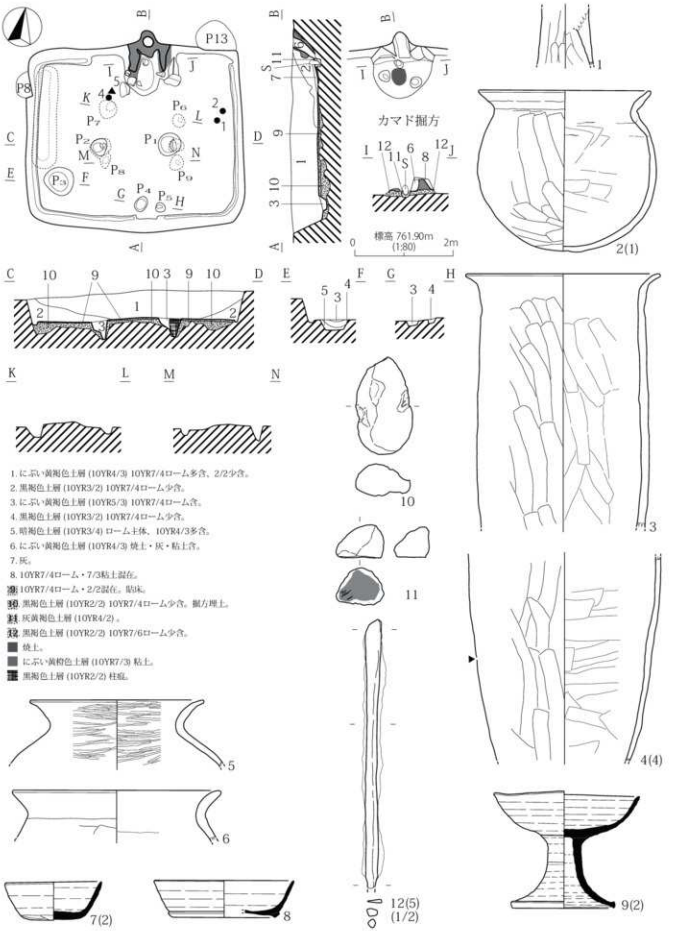


1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
2. 10YR7/4ローム・灰・焼土の混輪、3/2含。
3. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR4/3含。
貼床(厚床1.5～2cm)及び版方理土。

第６図　Ｈ３号住居址



第７図　Ｈ４号住居址


P13
P8
カマド掘方
標高 761.90m
(1:80)
0
2m
1.にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム多含、2/2少含。
2.黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。
3.にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム含。
4.黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。
5.暗褐色土層 (10YR3/4) ローム主体、10YR4/3多含。
6.にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 焼土・灰・粘土含。
7.灰。
8.10YR7/4ローム・7/3粘土混在。
9.10YR7/4ローム・2/2混在。旧ｶﾏ。
10.黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。掘方埋土。
11.灰黄褐色土層 (10YR4/2)。
12.黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/6ローム少含。
焼土。
にぶい黄橙色土層 (10YR7/3) 粘土。
黒褐色土層 (10YR2/2) 柱痕。
12(5)
(1/2)

第８図　Ｈ５号住居址

基のピットが主柱穴であり、φ 16㎝大の柱痕が確認された。西南隅の床面に段差が認められることから、本址は拡張された可能性が高い。周溝は確認されなかった。カマドは北壁の中央に存在するが、掘方状態に破壊されていた。

遺物は土師器と須恵器が出土した。土師器には坏（1）、甕（2 ～ 7）、壺（8）の器種が認められる。坏は北武蔵型であり、本来は本址と重複する H7 号住居址に伴うものと思われる。甕は全て武蔵甕であり、最大径を体部上半に有している。壺はヘラケズリ調整のものである。須恵器には坏(9 ～ 11)、有台坏(12)、坏蓋(13)、甕(14)、壺(15)の器種が認められる。坏 9 は杓状で、11 と共にロクロからの切り離しは回転糸切である。13 の坏蓋は「かえり」を有しており、本址に伴なうものではなく、H7 住居址に帰属するものと思われる。壺 15 は頸部に隆帯が巡る長頸壺である。図化部分は完形であり、口縁部を欠損した後も使い続けたようである。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅳ期に該当し、8 世紀の第Ⅳ四半期の実年代が想定される。

●Ｈ７号住居址（第 10図）

調査区北端中央部分からやや西寄りで検出された。H6 号住居址、M1 号溝址に切られる。主軸をＮ－ 35°－Ｗにとり、長軸長 6.03 m、短軸長 5.87 m、壁残高 0.56 m、面積 26.75㎡の規模であった。床面に均等に配置される P1 ～ P4 の 4 基のピットが主柱穴である。P4 からはφ 16㎝大の柱痕が確認された。カマド部分を除く壁下には周溝が巡り、東壁の P1 近くの周溝から垂直に短めの間仕切溝が 1 条延びている。カマドは焚口部分の石材が抜き取られ、天井部分は存在しなかったが、煙道部分は比較的良好に残存していた。

遺物は土師器と須恵器が出土した。土師器には坏（1 ～ 5）、鉢（6）、甕（7）、壺（8･9）の器種が認められる。坏は全て北武蔵型で、2 は内面に暗文が認められる。鉢は外面にヘラケズリ調整が施される小型のもの、甕は口縁部の破片、壺は 2 点共にヘラミガキ調整が施される。須恵器には坏(10) と坏蓋（11･12）の器種が認められる。坏蓋は「かえり」を有し、擬宝珠つまみが貼付されている。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の古墳時代Ⅳ期に該当し、7 世紀後半の実年代が想定される。

●Ｈ８号住居址（第 11図）

調査区南端の西南隅寄りで検出された。M1 号溝址に隣接する。H9 号住居址を切り、H11 号住居址に切られる。主軸をＮ－ 0°－Ｗにとり、長軸長 3.91 m、短軸長 3.4 m、壁残高 0.18 m の規模である。ピットは 5 基検出されたが主柱穴は判然としない。北壁のカマド脇から西南隅まで周溝が巡る。西壁の周溝外に床面よりも 1 段高いベッド状の部分が存在することから、本址は拡張されたものと思われる。カマドは北壁の中央やや東寄りに構築されるが、掘方状態に破壊されていた。

遺物は土師器と須恵器が出土している。土師器には坏（1）と甕（2･3）の器種がある。坏は底部ヘラケズリの内面ヘラミガキ、黒色処理のもので、甕は 2 点共に武蔵甕である。須恵器には坏（4･5）と有台坏（6）の器種が認められる。坏のロクロからの切り離しは回転糸切である。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅳ期に該当し、8 世紀第Ⅳ四半期の実年代が想定される。

●Ｈ９号住居址（第 12･13図）

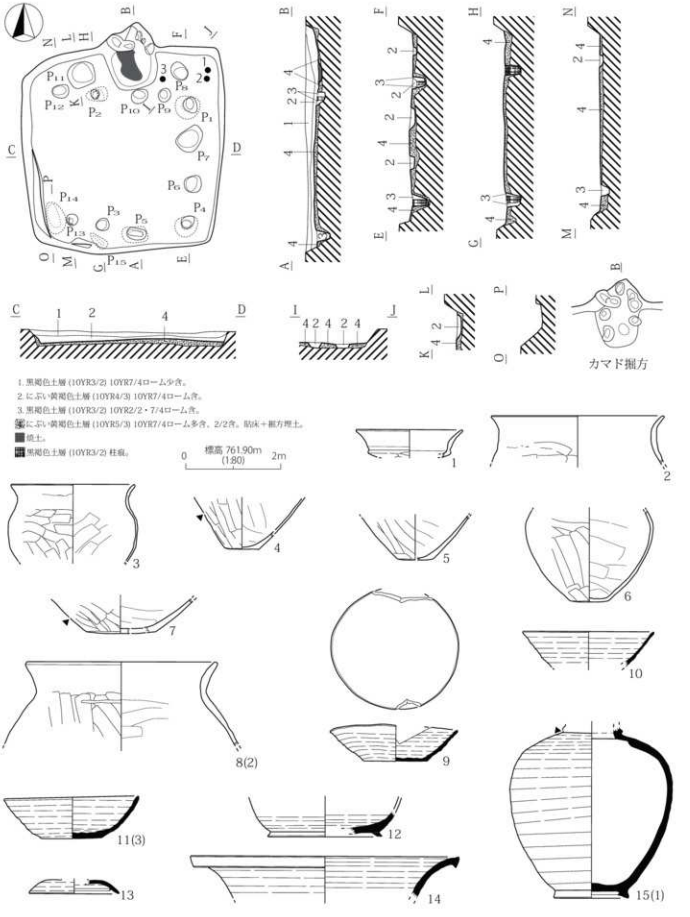
調査区南端中央付近で検出された。H8 号住居址に切られる。主軸をＮ－ 0°－Ｗにとり、長軸長 5.58 m、短軸長 5.56 m、壁残高 0.29 m の規模である。12 基検出されたピットの内、P1 ～ P3 の 3 基が廃絶時の主柱穴である。P1・P2 の掘方及び P8・P9 の 4 基が古い主柱穴であることから、本址は建て替えが行われている。カマドは北壁の中央部分に構築されているが、掘方状態に破壊されていた。北壁下のカマド部分以外と、西壁の南半から南壁及び東南隅の壁下には周溝が認められた。

遺物は土師器、須恵器、石器・石製品が出土している。土師器には坏（1）、甕（2 ～ 7）の器種が認められる。坏は大振りな所謂「畿内系暗文坏」であり、螺旋と放射暗文が施されている。甕は 2 が小形の胴張甕であるほかは武蔵甕である。確認出来るものは全て体部に最大径を有している。須恵器には坏（8 ～ 10）、坏蓋（11）、甕（12･13）の器種が認められる。坏のロクロからの切り離しは回転ヘラ切である。坏蓋は天井部が強く張る。甕は広口で頸部が短い鉢状のものである。石器・石製品は砥石 (14) が 1 点出土した。

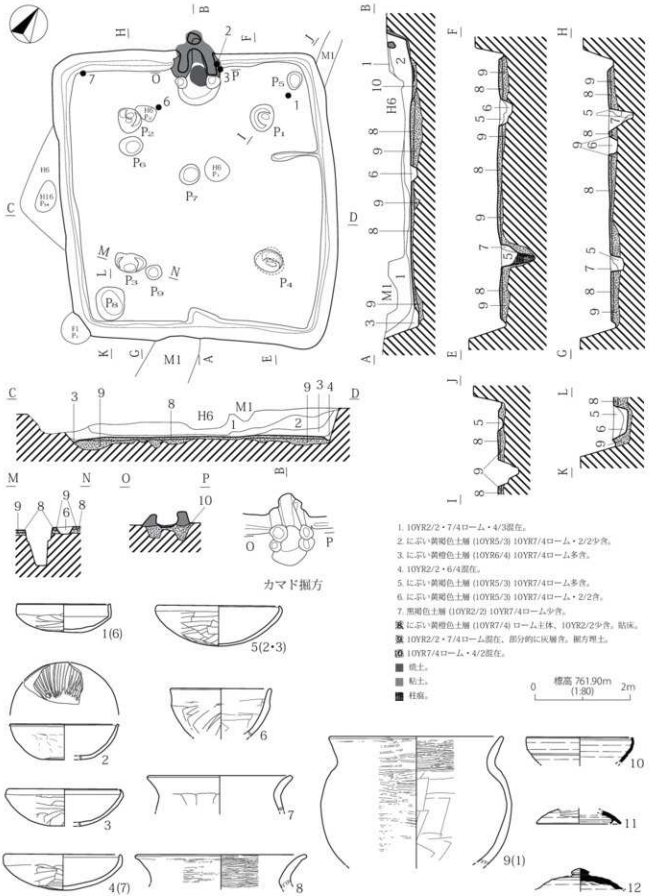
以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅲ期に該当し、8 世紀第Ⅲ四半期の実年代が想定される。

●Ｈ 10号住居址（第 14･15図）

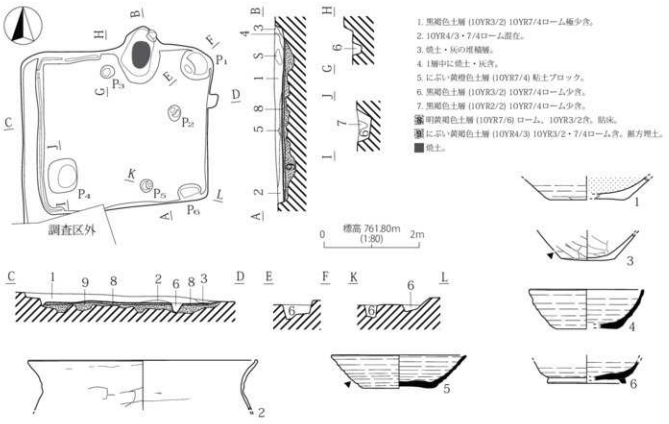
調査区中央付近で検出された。F7・8 号掘立柱建物址を切る。主軸をＮ－ 18°－Ｗにとり、長軸長 5.39 m、短軸長 5.23 m、壁残高 0.51 m、面積 19.78㎡の規模である。11 基検出されたピットの内、P1 から P4 の 4 基


カマド掘方
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム含。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR2/2・7/4ローム含。
にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。2/2含。貼床＋掘方埋土。
焼土。
黒褐色土層 (10YR3/2) 柱痕。
標高 761.90m
(1:80)
0
2m

第９図　Ｈ６号住居址


カマド掘方
1. 10YR2/2・7/4ローム・4/3混在。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・2/2少含。
3. にぶい黄橙色土層 (10YR6/4) 10YR7/4ローム多含。
4. 10YR2/2・6/4混在。
5. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
6. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・2/2含。
7. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。
炭 にぶい黄褐色土層 (10YR7/4) ローム土体、10YR2/2少含。貼床。
焼 10YR2/2・7/4ローム混在、部分的に灰層含。掘方埋土。
ロ 10YR7/4ローム・4/2混在。
■ 焼土。
■ 粘土。
■ 柱痕。
標高 761.90m
(1:80)
0
2m

第10図　H７号住居址



第 11 図　H 8 号住居址

が主柱穴である。P6 から P8 の 3 基は出入口と思われる。カマド部分を除く壁下には周溝が巡っている。カマドは北壁の中央に構築されていたが掘方状態に破壊されていた。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、石器・石製品が出土している。土師器には坏（1 ～ 3）、甕（4 ～ 8）の器種が認められる。坏は、底部及びその周縁にヘラケズリ調整が施され、内面はヘラミガキ後、黒色処理される。3 は内面に焼成後の刻書が認められる。甕は全て武蔵甕で体部に最大径を有する。須恵器には坏（9 ～ 11）、有台坏（12 ～ 14）、坏蓋（15 ～ 18）、甕（19）の器種が認められる。坏のロクロからの切り離しは、回転ヘラ切である。9・10 は外面底部にヘラ記号が刻まれている。有台坏のロクロからの切り離しは、回転ヘラ切と回転糸切によるものが認められる。14 の外底にはヘラ記号が刻まれる。坏蓋のつまみには皿状のものと、扁平な擬宝珠形態ものが認められる。甕は大甕の体部片であり、内面には青海波紋の当具痕、外面には平行叩目が残される。縄文土器 (20) は頸部付近の深鉢片で、微隆起と縄文が看取される。中期末から後期初頭のものと思われる。石器・石製品は磨・凹石 (21) が 1 点出土した。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅲ期に該当し、8 世紀第Ⅲ四半期の実年代が想定される。

●H 11号住居址

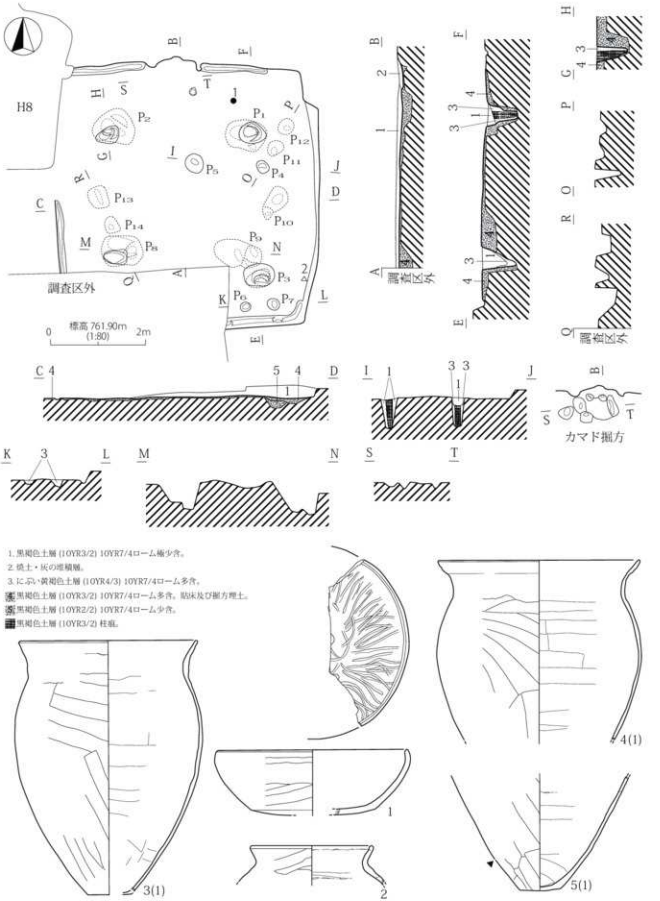
調査区南端の M1 号溝址と、H8 号住居址の狭間にカマド煙道先端部分のみが検出された。物理的に掘り下げることが不可能であったため、未調査である。

●H 12号住居址（第 16図）

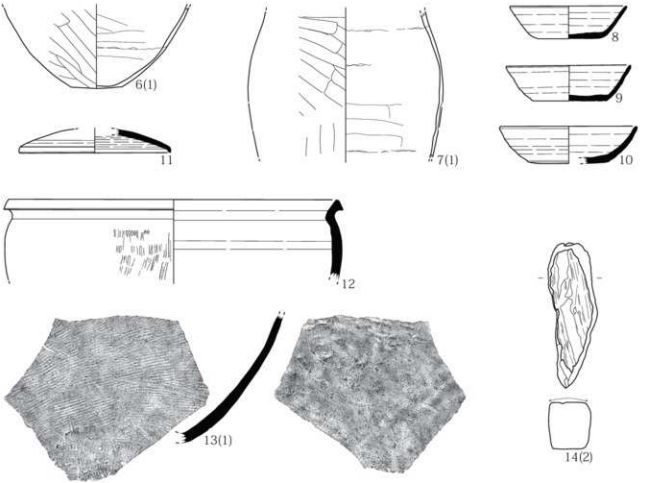
調査区北端の中央やや東寄りで検出された。H14 号住居址、F4・5 号掘立柱建物址、P126・129 に切られる。主軸をN－ 18°－Wにとり、長軸長 5.39 m、短軸長 5.23 m、壁残高 0.51 m、面積 19.78㎡の規模である。ピットは床面上で 1 基、掘方から 2 基検出されたが、全て主柱穴ではない。カマド東脇から南壁中央までの壁下には周溝が巡る。カマドは北壁の中央に構築されていたが、焚口部分の石が抜き取られ、粘土で構築された袖と煙道部分の一部分が残存していた。床下から方形の土坑が 1 基検出されたが、性格は不明である。

出土遺物は北武蔵型の土師器坏（1）が 1 点と、内面に青海波紋の当具痕、外面に平行叩目が施された須恵器甕の体部片（2）が 1 点出土した。

以上の出土遺物の特徴は、聖原編年の古墳時代Ⅳ期に該当し、7 世紀後半の実年代が想定される。



第 12 図　H 9 号住居址 (1)



第 13 図　Ｈ９号住居址 (2)

●Ｈ 13号住居址（第 17図）

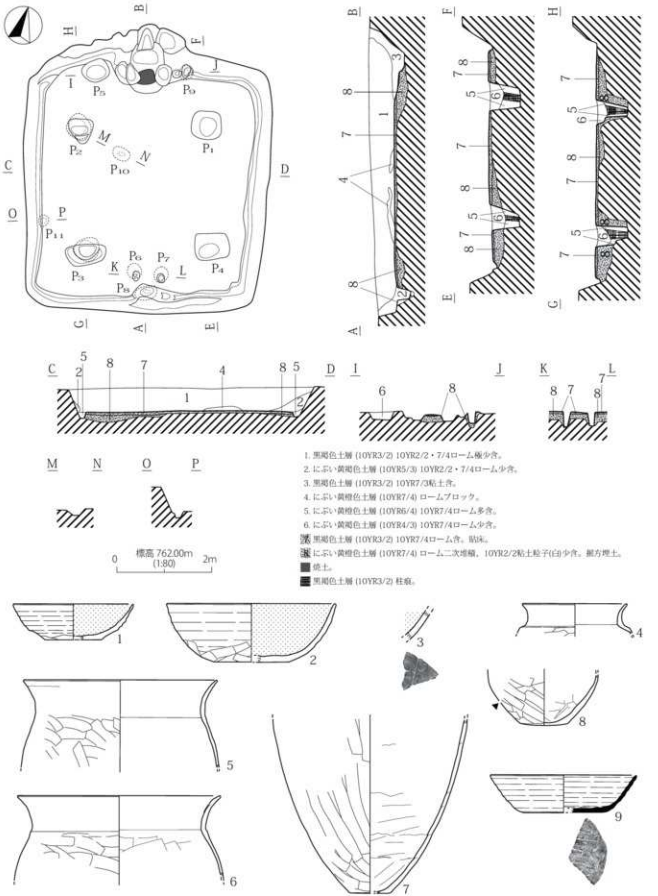
調査区中央やや東寄りで検出された。F9 号掘立柱建物址を切る。主軸をＮ－ 7°－Ｗにとり、長軸長 4.4 m、短軸長 4.34 m、壁残高 0.42 m、面積 14.74㎡の規模である。主柱は東西辺の中央に穿たれた P1・P2 の２基であり、φ 16㎝大の柱痕が確認された。掘方で検出された P8・P9 は出入口施設である。周溝は存在しない。カマドは北壁の中央に構築されているが、掘方状態に破壊されていた。床下から検出された隅丸長方形の土坑 D1 の性格は不明である。

遺物は土師器、須恵器、石器・石製品、鉄器が出土した。土師器には坏（1）、甕（２～５）の器種が認められる。坏は底部ヘラケズリ調整で、内面はヘラミガキ後黒色処理が施される。甕は全て武蔵甕である。最大径は体部に有している。須恵器には坏（６～ 11）、有台坏（12・13）、坏蓋（14・15）、甕（16）の器種が認められる。坏のロクロからの切り離しは、回転ヘラ切と回転糸切によるものが認められる。9 は杓状で外面に刻書が認められる。有台坏には身の浅い（12）と身の深い（13）の形態がある。坏蓋は天井部が平坦にある形態である。甕は底部近くの破片で、内面の当具痕はナデ調整により消されている。外面には平行叩目が看取される。石器・石製品は砥石 (17) が 1 点出土し、鉄器は刀子片 (18) が 1 点出土した。

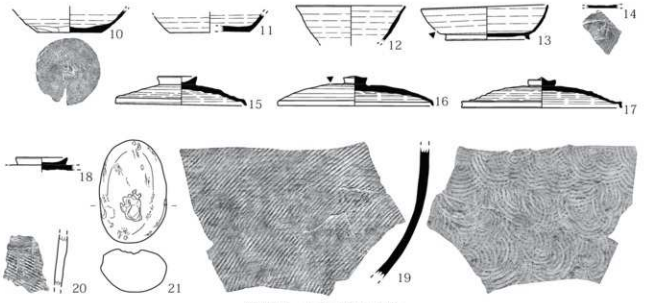
以上の出土遺物の特徴は聖原編年の奈良・平安時代Ⅲ期に該当し、8 世紀第Ⅲ四半期の実年代が想定される。

●Ｈ 14号住居址（第 18図）

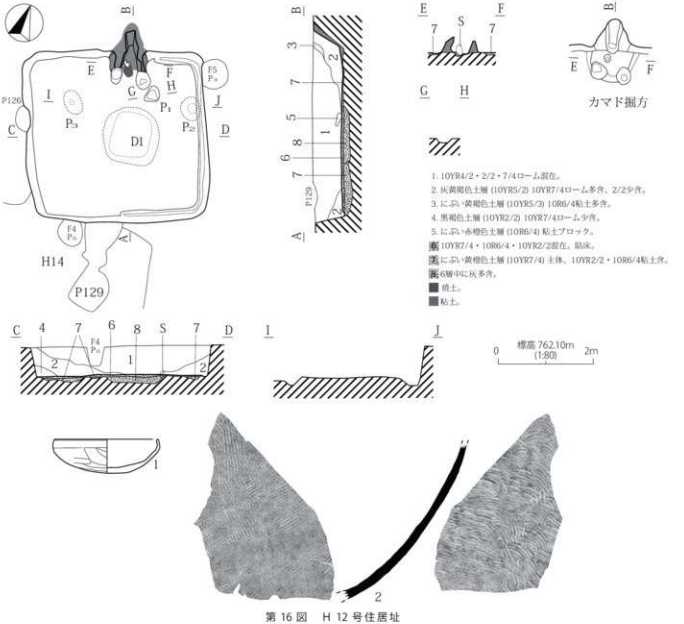
調査区北端中央南寄りで検出された。H12 号住居址を切り、F4 号掘立柱建物址、P103・133・144・145 号ピットに切られる。主軸をＮ－ 6.2°－Ｗにとり、長軸長 5.49 m（張出を含めると 6.42 m）、短軸長 5.77 m、壁残高 0.56 m、面積 25.59㎡の規模である。14 基検出されたピットの内、P1 ～ P4 の 4 基が主柱穴である。主柱の形態は、柱痕から P1 が丸太材である他は、割材であった。P12 と張出部が出入り口施設と考えられ、良く似た形状の古墳時代住居址とは、張出部の機能が異なる。いづれにせよ、特異な形態の住居である。カマド部分を除く壁下には周溝が巡り、北壁の中央には石芯を粘土で被覆したカマドが構築される。



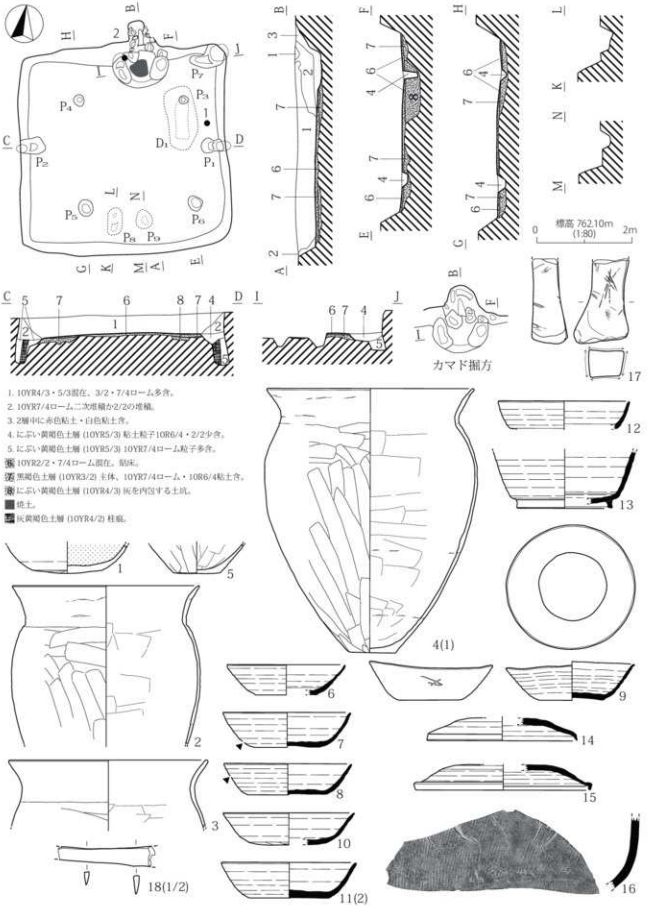
第 14 図　H 10 号住居址 (1)



第 15 図　H 10 号住居址 (2)



第 16 図　H 12 号住居址



第 17 図　H 13 号住居址

遺物は土師器と須恵器、鉄器が検出された。土師器には坏（1）と甕（2）の器種が認められる。坏は北武蔵型、甕は武蔵甕である。須恵器には坏（3）、有台坏（4）、円面硯（5）の器種が認められる。坏は底部のみはへんであり、ヘラケズリ調整が施される。内面が円滑になっており、転用硯の可能性がある。有台坏の底部は回転ヘラケズリ調整が施されているが、ロクロからの切り離しは回転ヘラ切による。円面硯は脚部を欠損するが、硯面は完存している。この状態で使用されていたようである。脚には７ヶ所の透かしが認められる。鉄器は柄に木質が残存した刀子片が１点出土した。

以上の出土遺物の特徴は聖原編年の奈良・平安時代Ⅰ期に該当し、８世紀第Ⅰ四半期の実年代が想定される。

●Ｈ 15号住居址（第 19・20図）

調査区南端中央付近で検出された。他遺構との重複関係は有さない。主軸をＮ－ 8.5°－Ｗにとり、長軸長 5.94 m、短軸長 5.72 m、壁残高 0.46 m、面積 21.87㎡の規模である。東壁に多数穿たれた柱穴は除外し、９基のピットが検出された。P1 ～ P4 の４基が主柱穴で、φ 16㎝大の柱痕が確認された。南壁下中央に位置する P6・P7 の２基が出入り口施設と思われる。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。カマドは北壁の中央に石芯を粘土で被覆して構築されていた。石材は軽石を面取り加工したものであった。掘方の調査から本址よりも一回り小型の旧住居の痕跡が確認された。

遺物は土師器、須恵器、石器・石製品が出土している。土師器は全て甕である。１が古墳時代的なヘラケズリ調整の小型甕、２・３は武蔵甕、４は北野型甕である。武蔵甕の最大径を口縁に有している。須恵器には坏（5）、有台坏（6・7）、甕（8・9）の器種が認められる。甕も２点共に破片資料である。９は甕の頸部片であり、窯印が刻まれる。石器・石製品には砥石（10）、台石（11）、軽石製品（12）、磨石（13・14）の器種が認められる。軽石製品（12）は円形で、中央に円孔が穿たれる。紡錘車かもしれない。

以上の出土遺物の特徴は聖原編年の奈良・平安時代Ⅰ期に該当し、８世紀第Ⅰ四半期の実年代が想定される。

●Ｈ 16号住居址（第 21図）

調査区南端中央付近で検出された。東南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。主軸をＮ－ 1.3°－Ｗにとり、壁残高 0.48 m の規模である。検出部分の壁下には、カマド部分を除き周溝が巡る。ピットは掘方から１基検出されただけであり、主柱穴は有さないものと思われる。カマドは北壁の中央と思われる部分に存在し、粘土で構築された袖が残存していた。

遺物は土師器武蔵甕（1）と須恵器坏（2）の２点が出土したのみである。須恵器坏の底部はヘラケズリ調整が施されている。

以上の出土遺物の特徴から本址の年代は、８世紀奈良時代に比定される。

第２節　掘立柱建物址

●Ｆ１号掘立柱建物址（第 22図）

調査区北西端付近で検出された。H7 号住居址を切る。長軸方位をＮ－ 8°－Ｗにとり、桁行 2.05 m、梁間 1.84 m、面積 3.77㎡の規模である。確認された柱痕径はφ 12㎝であった。一間×一間の側柱形態である。出土遺物は皆無なため時期は不明であるが、H7 号住居址との重複関係から古墳時代後期７世紀後半を遡ることはない。

●Ｆ２号掘立柱建物址（第 22図）

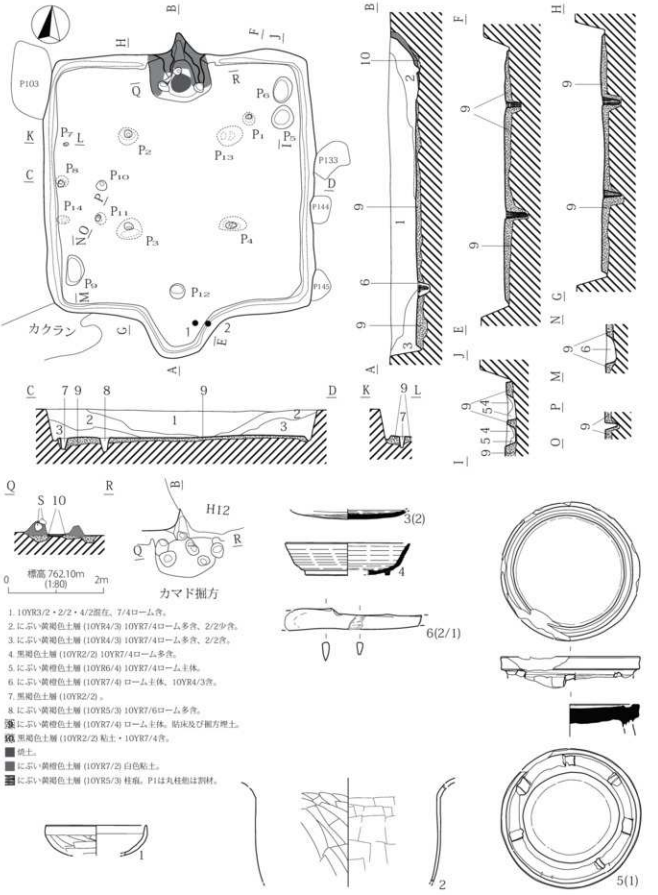
調査区北端中央付近で検出された。他遺構との重複関係は有さない。長軸方位をＮ－ 20°－Ｗにとり、桁行 2.1 m、梁間 1.9 m、面積 3.99㎡の規模である。確認された柱痕径はφ 13㎝であった。一間×一間の側柱形態である。出土遺物は皆無なため時期は不明である。

●Ｆ３号掘立柱建物址（第 22図）

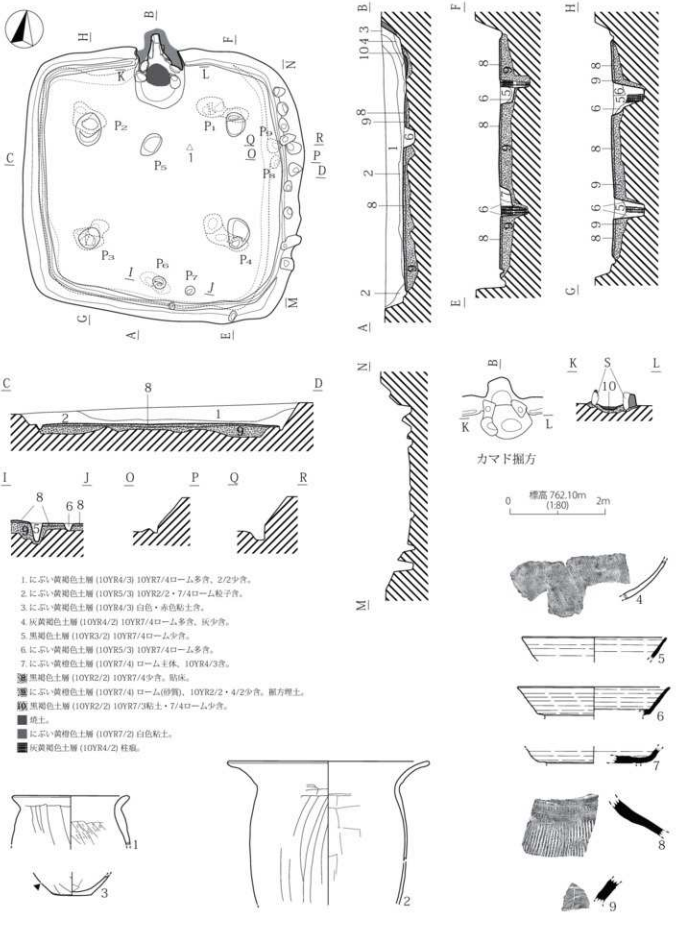
調査区中央付近で検出された。他遺構との重複関係は有さない。長軸方位をＮ－ 80°－Ｅにとり、桁行 4.5 m、梁間 3.9 m、面積 17.55㎡の規模である。確認された柱痕径はφ 13㎝～ 22㎝であった。二間×三間の側柱形態である。出土遺物は皆無なため時期は不明である。

●Ｆ４号掘立柱建物址（第 22図）

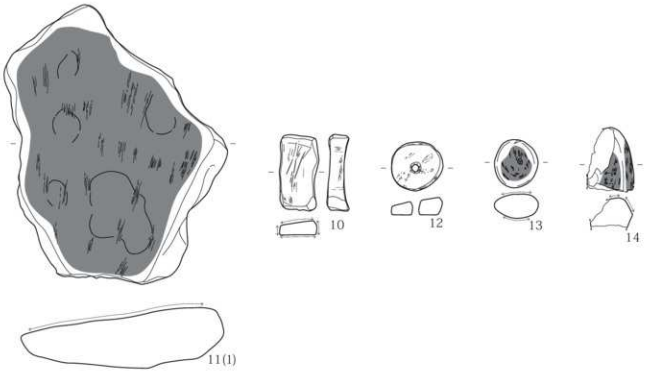
調査区北東端付近で検出された。Ｈ 12・14 号住居址を切る。長軸方位をＮ－ 80°－Ｅにとり、桁行 5.4 m、



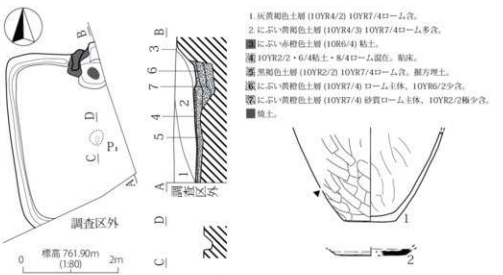
第 18 図　H 14 号住居址



第 19 図　H 15 号住居址 (1)



第 20 図　H 15 号住居址 (2)



第 21 図　H 16 号住居址

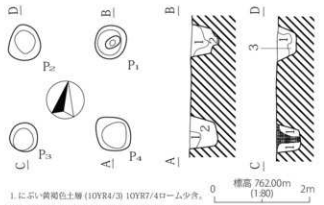
梁間 3.77 m、面積 20.36㎡の規模である。確認された柱痕径はφ 18 ～ 24㎝であった。二間×三間の側柱形態である。出土遺物は須恵器の坏が 1 点出土しているが、H 14 号住居址と重複する P7 出土であり、本址に確実に帰属するか否かは不明である。ロクロからの切り離しは回転ヘラ切で、奈良時代の所産である。

● F 5 号掘立柱建物址（第 23図）

調査区北東端で検出された。H 12 号住居址を切る。調査区外に延びるため全容は不明である。長軸方位をN － 51°－Eにとり、桁行 4.91 m、梁間 4.0 m、面積 19.64㎡の規模である。確認された柱痕径はφ 20㎝であった。二間×二間の側柱形態である。出土遺物は皆無なため時期は不明である。

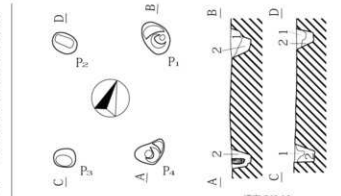
● F 6 号掘立柱建物址（第 23図）

調査区中央東寄りで検出された。P147・151・153 に切られる。長軸方位をN － 71°－Eにとり、桁行 2.07 m、梁間 1.72 m、面積 3.56㎡の規模である。確認された柱痕径はφ 27 ～ 34㎝であった。一間×一間の側柱形態で



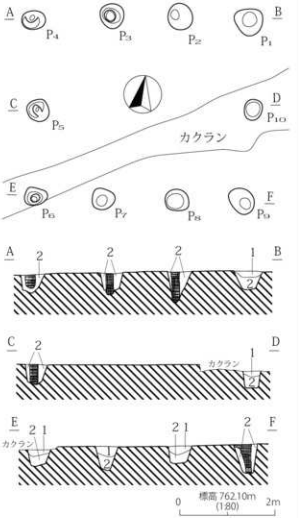
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム含。
3. 10YR4/3・7/4ローム混在。
■ 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 柱痕。

F1 号掘立柱建物址



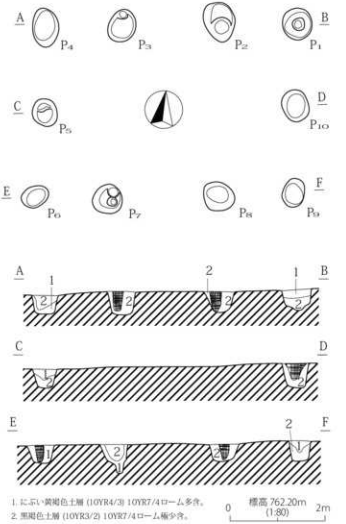
1. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム含。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム含。
■ 黒褐色土層 (10YR3/2) 柱痕。

F2 号掘立柱建物址



1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム少含。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム少含。
■ 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 柱痕。

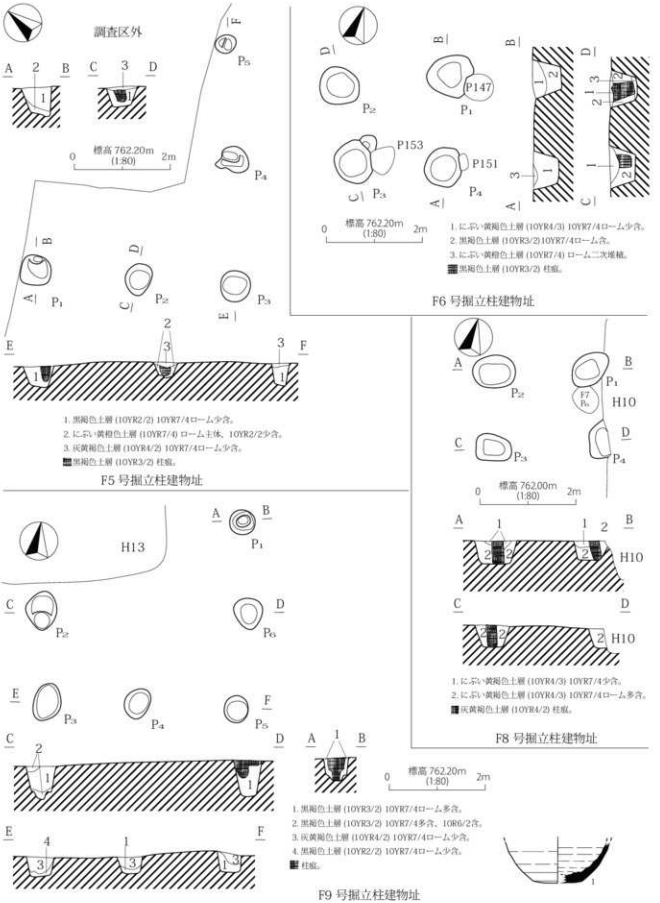
F3 号掘立柱建物址



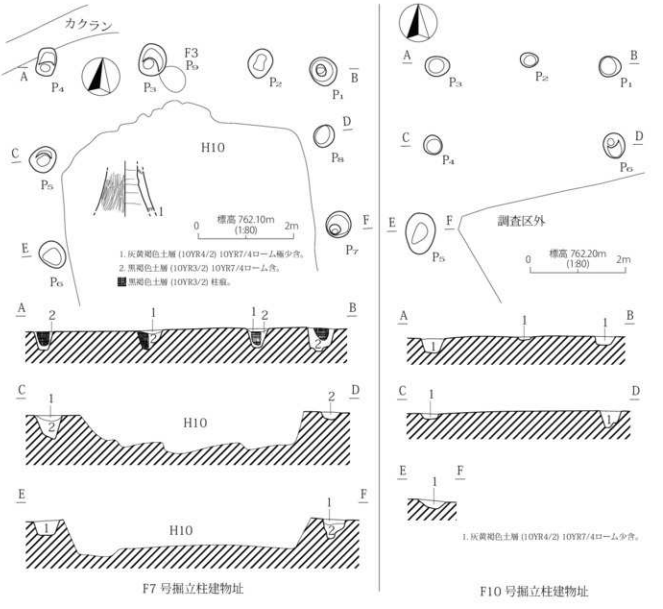
1. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム多含。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム極少含。
■ 黒褐色土層 (10YR3/2) 柱痕。

F4 号掘立柱建物址

第 22 図　掘立柱建物址 (1)



第 23 図　掘立柱建物址 (2)



F7 号掘立柱建物址　　F10 号掘立柱建物址

第 24 図　掘立柱建物址 (3)

ある。出土遺物は皆無なため時期は不明である。

● F 7 号掘立柱建物址（第 25図）

調査区中央で検出された。H10 号住居址に切られる。長軸方位をN－83°－Eにとり、桁行 5.9 m、梁間 4.0 m、面積 23.60㎡の規模である。確認された柱痕径はφ 24㎝であった。二間×三間の側柱形態である。出土遺物は土師器高坏の脚部片 1 点が P1 から出土している。これを指標とするならば、本址は古墳時代後期 7 世紀後半の所産である。

● F 8 号掘立柱建物址（第 24図）

調査区中央で検出された。H10 号住居址に切られる。長軸方位をN－74°－Eにとり、桁行 2.2 m、梁間 1.5 m、面積 3.3㎡の規模である。確認された柱痕径はφ 24㎝であった。一間×一間の側柱形態である。出土遺物は皆無なため時期は不明であるが、H10 号住居址との重複関係から、8 世紀第Ⅲ四半期を遡ることはない。

● F 9 号掘立柱建物址（第 23図）

調査区中央南東寄りで検出された。H13 号住居址に切られる。長軸方位をN－9°－Wにとり、桁行 4.16 m、

梁間 3.92 m、面積 16.3㎡の規模である。確認された柱痕径はφ 13㎝であった。二間×二間の側柱形態である。出土遺物は須恵器甕の底部片が P3 から出土している。これを指標とするならば、本址は奈良時代の所産である。

● F10号掘立柱建物址（第 24図）

調査区南端東寄りで検出された。他遺構との重複関係は有さない。南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。長軸方位をN－ 90°－Eにとり、桁行 3.8 m、梁間 3.5 m、面積 13.3㎡の規模である。柱痕は確認されなかった。二間×二間の側柱形態である。出土遺物は皆無なため時期は不明である。

第 3 節　土坑

●Ｄ１号土坑（第 25図）

調査区南西端で検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面形態は楕円形で、断面形態は逆梯形である。長軸方位をN－ 32°－Wにとり、長軸長 2.51 m、短軸長 1.5 m、深度 1.03 m、面積 3.22㎡の規模である。本址は縄文時代の陥穴であり、底面には 2 基の小径のピットが穿たれていた。その他に 3 層上面から埋設された小径の柱痕（杭）が 1 ヶ所確認された。出土遺物は皆無である。

●Ｄ２号土坑（第 25図）

調査区西端中央付近で検出された。他遺構との重複関係は有さない。平面形態は長方形、断面形態は逆梯形である。長軸方位をN－ 8.5°－Wにとり、長軸長 2.32 m、短軸長 1.04 m、深度 0.16 m、面積 3.22㎡の規模である。出土遺物は皆無であり、時期・性格共に不明である。

●Ｄ３号土坑（第 25図）

調査区南東端で検出された。他遺構との重複関係は有さないが、東方向に調査区外に延びる。平面形態は楕円形、断面形態は逆梯形である。長軸方位をN－ 19.4°－Wにとり、長軸長 3.36 m、短軸長 2.93 m、深度 1.61 mの規模である。

遺物は 1・2 層から集中的に出土した。図化不可能な土師器を極少数含むが、ほとんどは須恵器である。また、獣骨と人頭大の礫が少なからず混在した。須恵器には坏（1 ～ 5）、有台坏（6 ～ 10）、坏蓋（11･12）、甕（13 ～ 15）、甑（16）の器種が認められる。坏・有台坏のロクロからの切り離しは回転ヘラ切が大勢であるが、4 のような回転糸切によるものも極少数存在する。有台坏（8）の外底にはヘラ記号が認められた。坏蓋のつまみは皿状である。甑は把手部分の破片のみが出土した。

以上の出土遺物の特徴から本址は、聖原編年の奈良・平安時代Ⅲ期に該当し、8 世紀第Ⅲ四半期の実年代が想定されている。

第 4 節　溝址

●Ｍ１号溝址（第 27図）

調査区中央西寄りを南北に縦断する。検出長 26.0 m、最大幅 1.38 m、最大深度 0.8 mの規模である。Ｈ 6・7 号住居址を切り、Ｐ 28・81 に切られる。覆土は砂粒と砂利、地山 P1 の複数回に亘る重複堆積であり、水が北から南に断続的に流れていたようである。遺物の多くは砂利層に混在しており、小破片が多い。図化できた遺物は須恵器坏（1）、有台坏（2･3）、石鏃（4）の 4 点である。本址は、平安時代以降の所産と思われる。

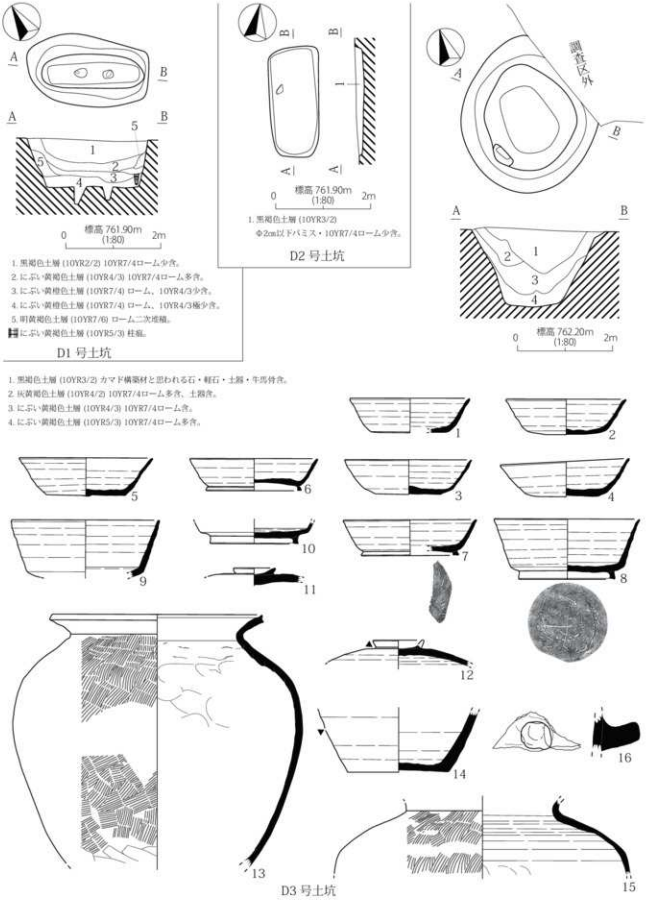
第 5 節　ピット

●Ｐ１～Ｐ２３６（第 28 ～ 31、33 ～ 37 図）

236 基検出された。詳細については計測表を参照願いたい。調査区北半に集中する傾向が認められる。多くのものは出土遺物はなく時期、性格共に不明である。

第 6 節　遺構外出土遺物（第 38図）

須恵器平瓶の口縁部と思われる破片が 1 点出土している。


A
B
5
1
2
3
4
標高 761.90m
(1:80)
0
2m
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。
2. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム多含。
3. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム、10YR4/3少含。
4. にぶい黄橙色土層 (10YR7/4) ローム、10YR4/3極少含。
5. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム二次堆積。
にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 柱痕。
D1 号土坑
標高 761.90m
(1:80)
1. 黒褐色土層 (10YR3/2)
φ2cm以下パミス・10YR7/4ローム少含。
D2 号土坑
調査区外
標高 762.20m
(1:80)
1. 黒褐色土層 (10YR3/2) カマド構築材と思われる石・軽石・土器・牛馬骨含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム多含、土器含。
3. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム含。
4. にぶい黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含。
D3 号土坑

第 25 図　土坑

第Ⅲ章　まとめ

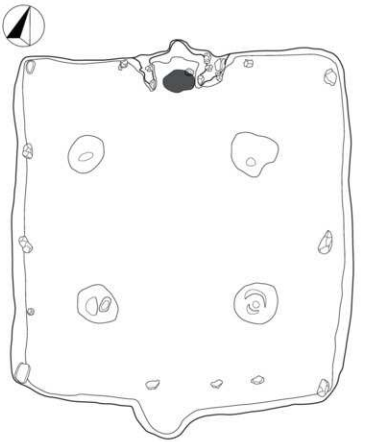
●張出部を持つ住居址について（第 26・32）

今回の調査において、佐久地域では古墳時代後期 6世紀の竪穴住居址に特徴的な、カマドに対面する辺の中央部分に方形の張出を有する平面形態のものが奈良時代８世紀にも存在することが確認された。類例を探すと、前田遺跡Ⅱ H46号住居址、芝宮遺跡群 175号竪穴住居址、中原遺跡群 131号竪穴住居址などが管見にふれたのみであり、稀有な存在であることは確かなようである。

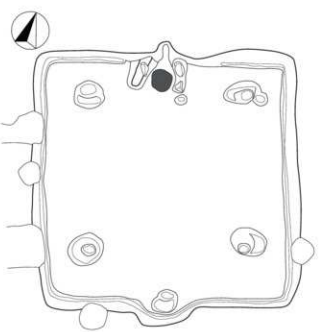
芝宮例は、張出部分には柱穴を持たず、張出も小規模で、平面形状も方形というよりは楕円である。中原例も張出は小規模であるが、柱穴が存在し、平面形状は方形である。年代は２例共に８世紀半ばが比定されている。前田Ⅱの H46号住居址は前 2例とは異なり、張出部分の規模が大きく、張出の前面に柱穴が存在し、平面形状は方形である。時期的には前 2例よりも古く、7世紀後半代が比定される。

今回の調査で検出された H14号住居址は、年代的には前田Ⅱ H46号住居址よりも新しく、8世紀第一四半期の実年代が想定される。形態的には前田Ⅱ H46号住居址と同じである。各遺跡の報告書記載の該当住居址の年代に準拠するならば、前田Ⅱ H46号住居址から今回調査の H14号住居址、芝宮遺跡群 175号竪穴住居址・中原遺跡群 131号竪穴住居址への変遷が認められる。つまり、古墳時代後期７世紀後半に出現し、順次小型化をし、奈良時代８世紀半ばで消滅する。

古墳時代６世紀のものとの大きな相違は、古墳時代のものはカマド脇の貯蔵穴を張出部分に移動した形態であるのに対し、７世紀後半以降のものは貯蔵穴ではないという、機能の違いであり、当然出自が異なるものであろうことが推測される。現状ではあまりにも類例が少なく、その存在を指摘することに留めるが、注意が必要な遺構である。

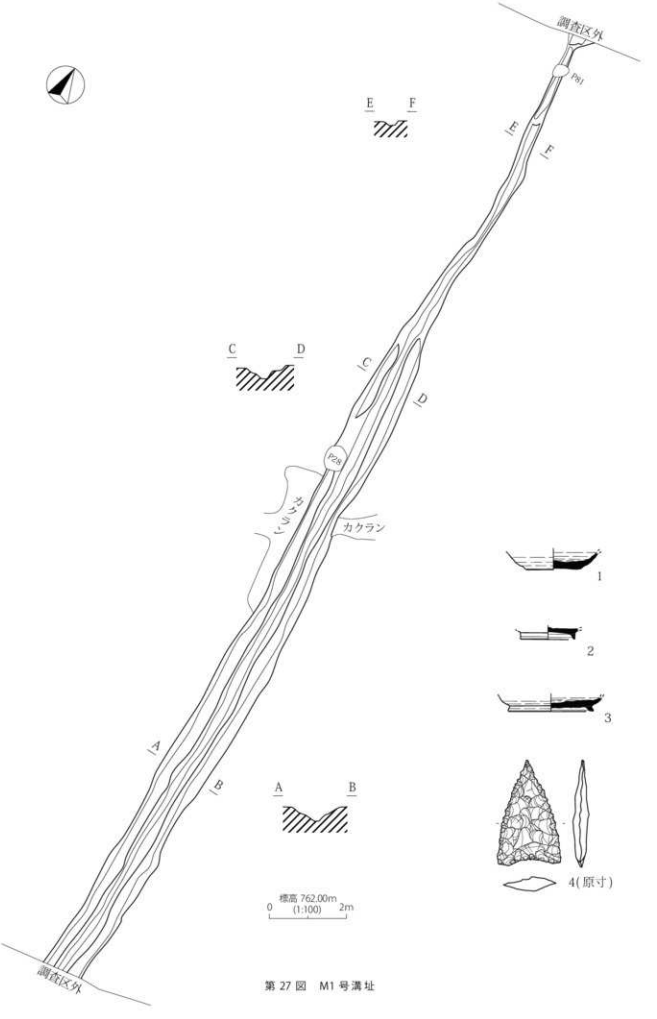


芝宮遺跡群 175 号竪穴住居址

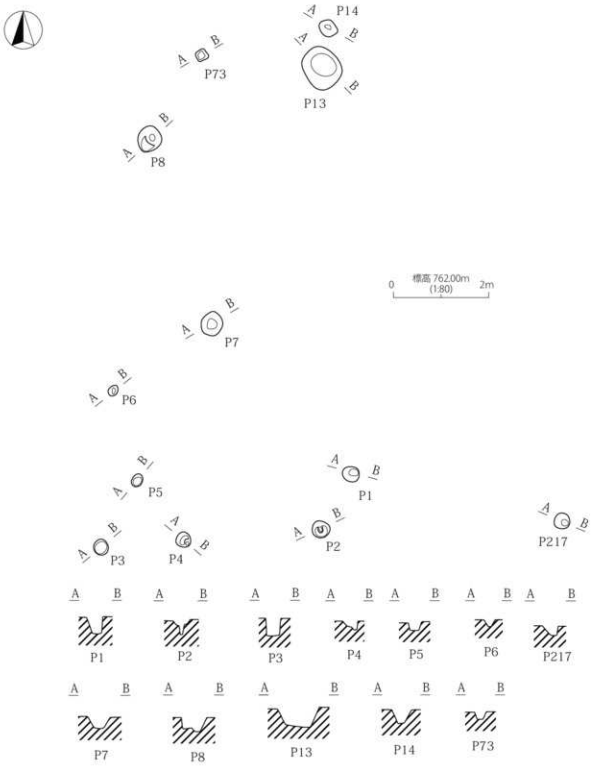


中原遺跡群 131 号竪穴住居址

第 26 図　張出部を持つ住居址 (1)



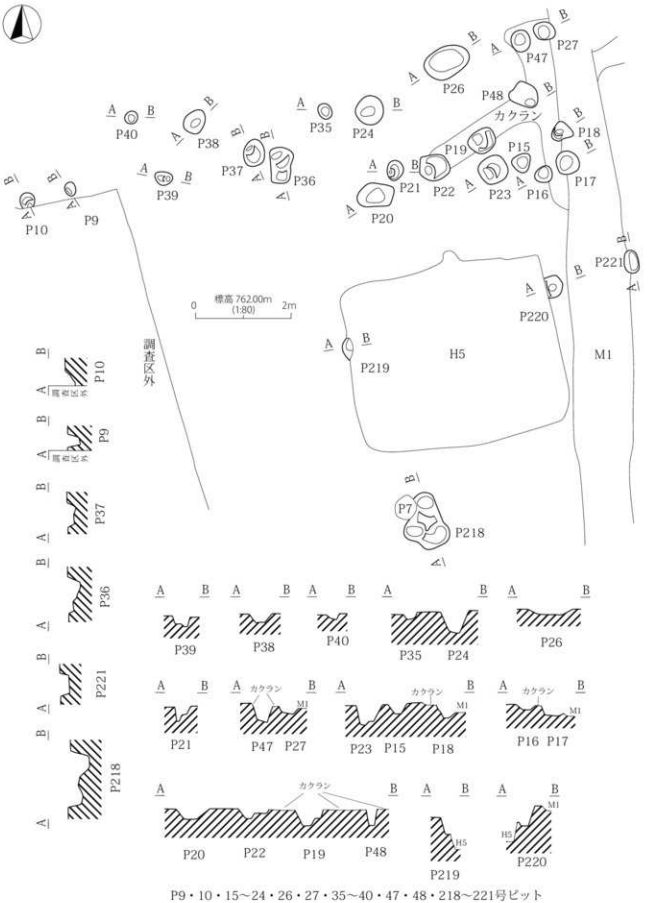
第 27 図　M1 号溝址



第 28 図　ピット (1)

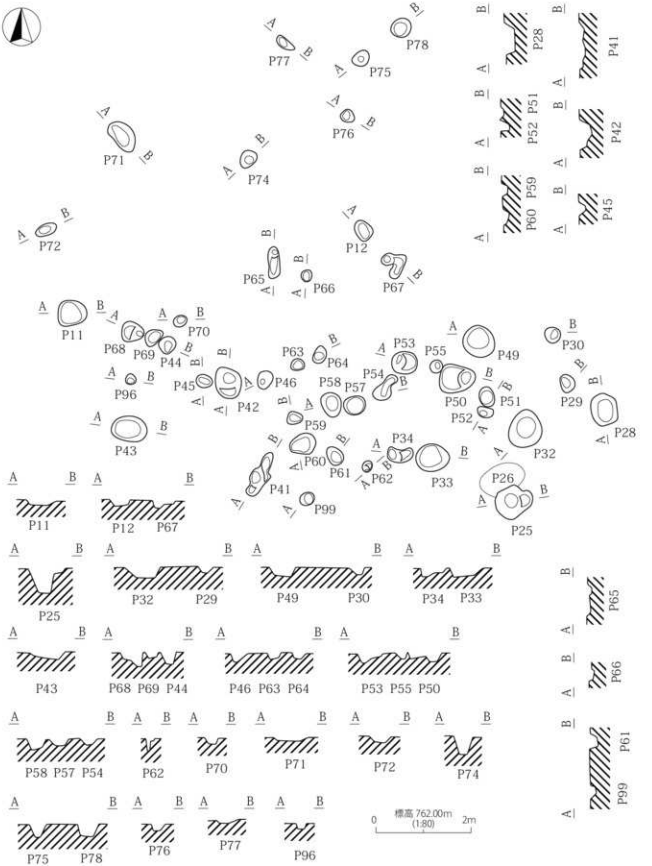
●円面硯について（第 39図）

前項でも記したが、今回の調査において脚を欠損する圏足円面硯が 1 点出土した。住居址床面からの出土であり、年代が確定できる資料である。原明芳氏の「信濃の陶硯」（2011、長野県立歴史館研究紀要 17 号）によれば、



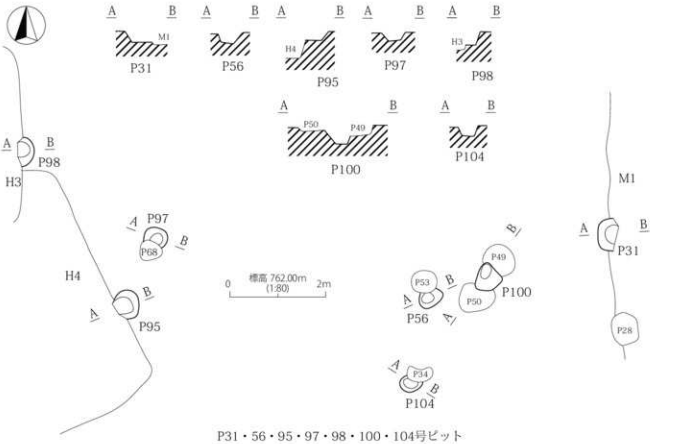
P9・10・15～24・26・27・35～40・47・48・218～221号ピット

第 29 図　ピット (2)



P11・12・25・28～30・32～34・41～46・49～55・57～72・74～78・96・99号ピット

第 30 図　ピット (3)

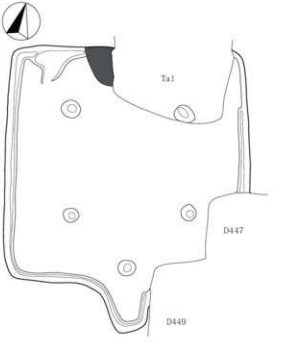


P31・56・95・97・98・100・104号ピット

第 31 図　ピット (4)

佐久郡内では 15 遺跡から 27 点の専用硯（硯を目的に生産されたもの）の出土が確認されている。年代的には西近津遺跡群出土の「中空円面硯」が最も古く 7 世紀後半である。形態的には前述の「中空円面硯」と儘田遺跡出土の「風字硯」の 2 例以外は「圏足円面硯」であり、本例も「圏足円面硯」である。「圏足円面硯」の規格には、硯面が 11㎝前後、14㎝前後、20㎝超の大まかに 3 種類の物が認められる。20㎝超の規格のものは郡衙推定地のような特別な遺跡からの出土品であり、一般的な集落遺跡出土のものは 11㎝前後の規格のものが多い。佐久郡内で 14㎝前後の規格のものが出土する遺跡は、大規模集落遺跡か、官衙ないし官衙関連遺跡に集中する傾向が認められるようである。本例もこの規格に該当しており、隣接する宮ノ反 A 遺跡には官衙跡が存在する。

前田遺跡群とその周辺では現在までのところ御代田町前田遺跡で 2 点、佐久市前田遺跡Ⅲで 1 点、小諸市鋳物師屋遺跡で 1 点、そして今回出土例 1 点を加えた計 5 点の圏足円面硯が出土している。御代田前田 H20、小諸鋳物師屋第 13 号住居址、そして今回の出土例が 14㎝前後の規格で、他の 2 点が 11㎝前後の規格である。時期的には本例が 8 世紀第Ⅰ四半期のほかは、8 世紀第Ⅳ四半期から 9 世紀初頭の年代が比定されている。



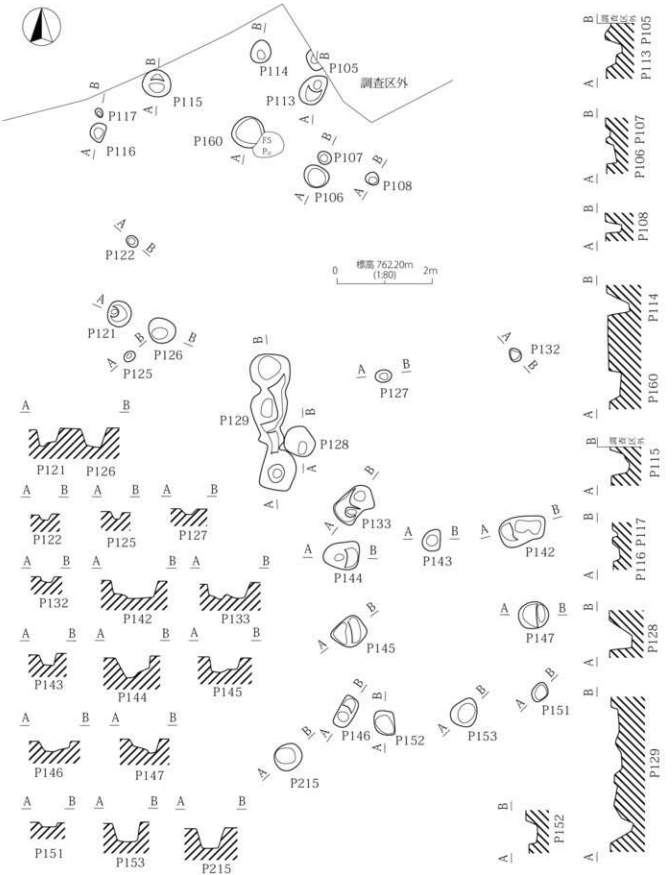
前田ⅡH46 号住居址

第 32 図　張出部を持つ住居址 (1)

本例の出土遺構が前項の張出を持つ H14 号住居址であることを考え合わせると、H14 号住居址が同時期の他の住居址とは異なる性格の遺構である可能性が強いように思われる。

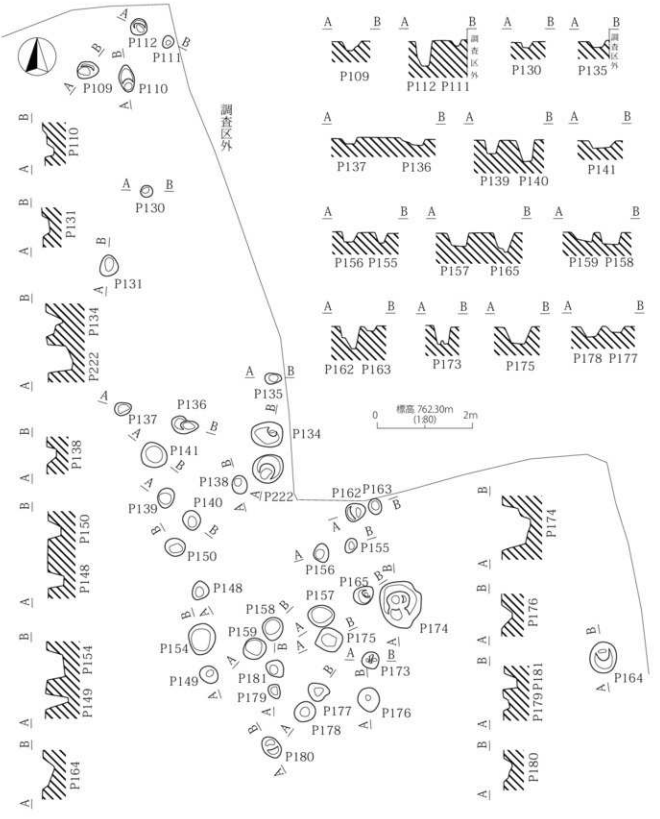
P79～94・101～103・118～120・123・124・223～225号ピット

第 33 図　ピット (5)



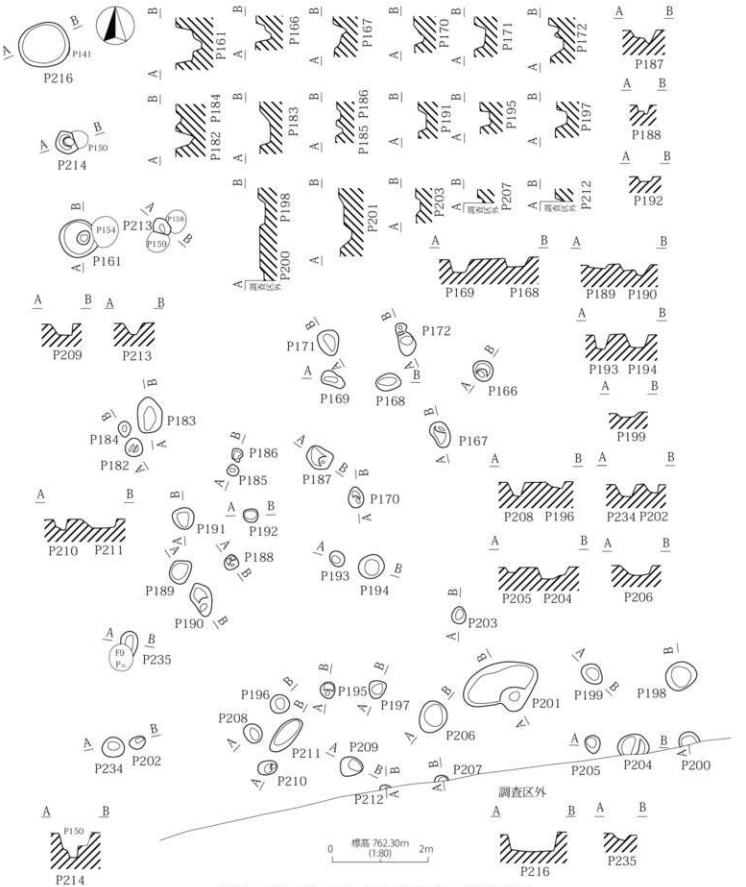
P105～108・113～117・121・122・125～129・132・133・142～147・151～153・160・215号ピット

第 34 図　ピット (6)



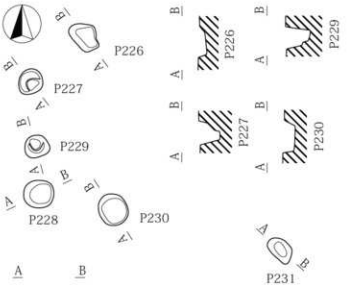
P109～112・130・131・134～141・148～150・154～159・162～165・173～181・222号ピット

第 35 図　ピット (7)

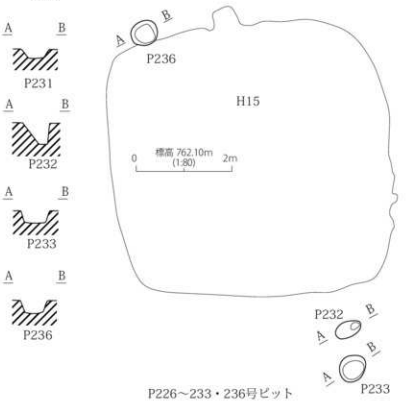


P161・166～172・182～214・216・234・235号ピット

第 36 図　ピット (8)



第 38 図　遺構外出土遺物



P226～233・236号ピット

第 37 図　ピット (9)

第 39 図　周辺出土円面硯

住居址計測表

遺構名	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	ピット	付属施設	備　　考	時　　期
H 1	調査区外に延びる	N－16°－W	3.64	－	0.36	－	－	周溝	掘方から土坑	8 世紀第Ⅱ四半期
H 2	調査区外に延びる	N－25.3°－W	5.45	－	0.47	－	5	周溝	－	8 世紀第Ⅰ四半期
H 3	H4 を切る、調査区外に延びる	－	－	－	0.40	－	－	－	－	9 世紀前半
H 4	H3・P11・P43 に切られる、調査区外に延びる	N－27°－W	5.35	－	0.51	－	1	周溝、間仕切	柱痕 φ 14cm	7 世紀代
H 5	P3・P8・P13 に切られる	N－10°－W	4.43	3.71	0.56	12.00	9	カマド、周溝	主軸が短軸	8 世紀第Ⅰ四半期
H 6	H7 を切り、M1 に切られる	N－0°－W	4.36	4.28	0.25	14.60	14	カマド	東壁下南半分の床が 1 段高い	8 世紀第Ⅳ四半期
H 7	H6・M1 に切られる	N－35°－W	6.03	5.87	0.56	26.75	9	カマド、周溝、間仕切り	－	7 世紀後半
H 8	H9 を切る	N－0°－W	3.91	3.40	0.18	－	5	カマド、周溝、ベッド状遺構	主軸が短軸	8 世紀第Ⅳ四半期
H 9	H8 に切られる	N－0°－W	5.58	5.56	0.29	－	12	カマド、周溝	－	8 世紀第Ⅲ四半期
H10	F7・F8 を切る	N－18°－W	5.39	5.23	0.51	19.78	11	カマド、周溝	－	8 世紀第Ⅲ四半期
H11	H8 をきる	－	－	－	－	－	－	カマド	カマド煙道先端部を検出。未掘。	不明
H12	H14、F4・F5、P126・129 に切られる	N－19.8°－W	3.61	3.83	0.61	10.87	3	カマド、周溝、床下土坑	主軸が短軸	7 世紀後半
H13	P9 を切る	N－7°－W	4.40	4.34	0.42	14.74	9	カマド	主柱 2 本	8 世紀第Ⅲ四半期
H14	H12 を切り、F4、P103・133・144・145 に切られる	N－6.2°－W	5.49 (6.42)	5.77	0.56	25.59	14	カマド、周溝、張り出し	－	8 世紀第Ⅰ四半期
H15	－	N－8.5°－W	5.94	5.72	0.46	21.87	9	カマド、周溝、東壁に柱穴多数	主軸が短軸	8 世紀第Ⅰ四半期
H16	調査区外に延びる	N－1.3°－E	－	－	0.48	－	1	カマド、周溝	－	8 世紀代

掘立住建物址計測表

遺構名	重複関係	主軸方位	桁行長	梁間長	面積	柱痕径	桁行柱間寸法	梁間柱間寸法	備　　考	時　　期
F 1	H7 を切る	N－8°－W	2.05	1.84	3.77	0.12	2.05	1.84	－	7 世紀以降
F 2	－	N－20°－W	2.10	1.90	3.99	0.13	2.10	1.90	－	不明
F 3	－	N－80°－E	4.50	3.90	17.55	0.13～0.22	1.37～1.62	1.95	－	不明
F 4	H12・14 を切る	N－80°－E	5.40	3.77	20.36	0.18～0.24	1.52～2.20	1.89	－	8 世紀代
F 5	H12 を切る	N－51°－E	4.91	4.00	19.64	0.20	2.34～2.57	1.88～2.12	調査区外に延びる	不明
F 6	P147・151・153 に切られる	N－71°－E	2.07	1.72	3.56	0.27～0.34	2.07	1.78	－	不明
F 7	H10 に切られる	N－83°－E	5.90	4.00	23.60	0.24	1.30～2.40	1.40～2.00	－	7 世紀後半
F 8	H10 に切られる	N－74°－E	2.20	1.50	3.30	0.24	2.20	1.50	－	8 世紀第Ⅲ四半期以降
F 9	H13 に切られる	N－9°－W	4.16	3.92	16.30	0.13	2.08	1.92～2.00	－	8 世紀代
F10	－	N－90°－E	3.80	3.50	13.30	－	2.08～1.70	1.60～1.90	調査区外に延びる	不明

土坑計測表

遺構名	重複関係	平面形態	長軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	備考	時　　期
D 1	－	楕円	N－32°－W	2.51	1.50	1.03	3.22	縄文時代の陥穴	縄文時代
D 2	－	長方形	N－8.5°－W	2.32	1.04	0.16	2.29	－	不明
D 3	－	楕円	N－19.4°－W	3.36	2.93	1.61	－	調査区外に延びる	8 世紀第Ⅲ四半期

溝址計測表

遺構名	重複関係	検出長	最大幅	最大深	備考	時　　期
M1	H 6・7 を切る	26.00	1.38	0.80	－	－

ピット計測表 (1)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	備　　考
P 1	－	楕円形	36	32	37	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P 2	－	円形	38	38	32	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P 3	－	楕円形	35	31	38	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P 4	－	円形	31	31	19	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P 5	－	楕円形	28	23	19	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。
P 6	－	楕円形	24	19	15	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。

ピット計測表 (2)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	備　　考
P 7	P218 を切る	楕円形	52	47	30	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P 8	H5 を切る	楕円形	58	50	26	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P 9	—	楕円形	30	24	29	10YR2/2、10YR7/4 ローム含。
P10	調査区外に延びる	—	—	31	22	10YR2/2、10YR7/4 ローム含。
P11	H4 を切る	楕円形	61	54	11	10YR5/3、10YR7/4 ローム含。
P12	—	楕円形	44	34	13	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P13	H5 を切る	隅丸長方形	88	74	44	10YR3/2、10YR7/4 ローム含。
P14	—	楕円形	42	31	29	10YR5/3、10YR7/4 ローム含。
P15	—	円形	40	40	22	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P16	—	楕円形	38	33	12	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P17	M1 に切られる	円形	50	49	21	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P18	M1 に切られる	円形	44	41	32	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P19	—	楕円形	60	51	33	10YR2/2、10YR7/4 ローム少含。
P20	—	楕円形	80	51	23	10YR2/2、10YR7/4 ローム少含。
P21	—	楕円形	42	33	31	10YR5/3、10YR7/4 ローム多含。
P22	—	楕円形	63	56	21	10YR2/2、10YR7/4 ローム少含。
P23	—	円形	58	57	42	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P24	—	円形	61	59	47	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P25	P26 に切られる	不整形	80	63	53	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P26	P25 を切る	楕円形	97	66	13	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P27	M1 に切られる	楕円形	48	38	18	10YR5/3、10YR7/4 ローム含。
P28	M1 に切られる	楕円形	67	56	22	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P29	—	楕円形	39	31	16	10YR5/3、10YR7/4 ローム多含。
P30	—	円形	35	33	17	10YR5/3、10YR7/4 ローム多含。
P31	M1 に切られる	—	67	—	24	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P32	—	楕円形	80	69	21	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P33	—	楕円形	71	58	20	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P34	—	不整形	54	28	20	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P35	—	楕円形	34	27	12	10YR4/3、10YR7/4 ローム多含。
P36	—	隅丸長方形	77	49	28	10YR6/4、10YR7/4 ローム多含。
P37	—	楕円形	58	45	19	10YR4/2、10YR7/4 ローム多含。
P38	—	楕円形	52	43	21	10YR2/2、10YR7/4 ローム少含。
P39	—	楕円形	37	28	22	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。
P40	—	円形	28	28	13	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P41	—	不整形	102	38	16	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P42	—	楕円形	71	57	25	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P43	—	楕円形	76	54	17	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P44	—	円形	38	37	27	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P45	—	楕円形	35	29	15	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P46	—	楕円形	40	32	20	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P47	—	楕円形	46	39	42	10YR2/2、10YR7/4 ローム少含。
P48	—	不整楕円形	62	47	33	10YR2/2、10YR7/4 ローム少含。
P49	P100 を切る	円形	70	63	19	10YR2/2、10YR7/4 ローム少含。
P50	P100 を切る	楕円形	76	62	20	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P51	—	楕円形	43	32	8	10YR5/3、10YR7/4 ローム含。
P52	—	楕円形	35	23	19	10YR5/3、10YR7/4 ローム含。
P53	P56 を切る	楕円形	56	48	20	10YR5/3、10YR7/4 ローム含。
P54	—	不整形	63	34	16	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P55	—	円形	27	27	16	10YR5/3、10YR7/4 ローム含。

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	備　　考
P56	P53 に切られる	—	54	—	24	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P57	—	楕円形	46	40	15	10YR5/3、10YR7/4 ローム少含。
P58	—	楕円形	53	41	23	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。
P59	—	楕円形	35	28	16	10YR5/3、10YR7/4 ローム少含。
P60	—	楕円形	57	45	14	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。
P61	—	楕円形	43	32	18	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P62	—	楕円形	25	21	27	10YR2/2、10YR7/4 ローム含。
P63	—	楕円形	30	26	14	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P64	—	楕円形	38	27	14	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P65	—	楕円形	68	24	13	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P66	—	楕円形	26	23	13	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P67	—	不整形	55	50	17	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P68	P97 を切る	円形	48	44	32	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P69	—	楕円形	42	31	14	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P70	—	楕円形	29	25	14	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P71	—	楕円形	73	43	14	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P72	—	楕円形	47	25	14	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P73	—	方形	23	22	16	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P74	—	楕円形	41	33	39	10YR2/2、10YR7/4 ローム少含。
P75	—	楕円形	38	31	28	10YR2/2、10YR7/4 ローム少含。
P76	—	円形	30	28	15	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。
P77	—	楕円形	44	20	9	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。
P78	—	円形	43	41	27	10YR3/2、10YR7/4 ローム含。
P79	—	楕円形	26	20	24	10YR5/3、10YR7/4 ローム含。
P80	調査区外に延びる	—	39	—	10	10YR5/3、10YR7/4 ローム含。
P81	—	楕円形	45	34	15	10YR5/3、10YR7/4 ローム含。
P82	—	楕円形	49	38	14	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P83	—	楕円形	29	21	17	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。
P84	—	円形	28	28	11	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P85	—	楕円形	46	32	20	10YR2/2、10YR7/4 ローム少含。
P86	—	楕円形	31	23	23	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P87	—	楕円形	45	35	15	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P88	—	円形	29	28	40	10YR5/3、10YR7/4 ローム多含。
P89	—	楕円形	36	28	25	10YR5/3、10YR7/4 ローム多含。
P90	—	楕円形	48	34	12	10YR4/3、10YR7/4 ローム多含。
P91	—	楕円形	63	47	22	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P92	—	不整形	85	53	22	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P93	—	楕円形	46	32	13	10YR5/3、10YR7/4 ローム含。
P94	—	楕円形	31	24	10	10YR2/2、10YR7/4 ローム含。
P95	H4 に切られる	—	62	—	20	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P96	—	円形	23	23	14	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P97	P68 に切られる	—	50	—	19	10YR3/2、10YR7/4 ローム含。
P98	H3 に切られる	—	—	—	29	10YR3/2、10YR7/4 ローム含。
P99	—	楕円形	33	28	14	10YR3/2、10YR7/4 ローム含。
P100	P49・50 に切られる	不整形	62	57	29	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P101	F3 に切られる	—	43	—	8	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P102	—	楕円形	52	44	16	10YR2/2、10YR7/4 ローム少含。
P103	—	隅丸長方形	175	90	64	10YR2/2、10YR7/4 ローム少含。
P104	—	—	49	—	23	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。

ピット計測表 (3)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	備　　考
P105	調査区外に延びる	—	—	—	38	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P106	—	楕円形	55	46	22	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P107	—	楕円形	31	27	11	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P108	—	楕円形	29	26	36	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P109	—	楕円形	46	36	24	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P110	—	楕円形	58	33	26	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P111	—	円形	26	24	13	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P112	—	円形	35	35	55	10YR3/2、4/3、7/4 ローム顕在。
P113	—	楕円形	69	49	22	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P114	—	楕円形	48	42	50	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P115	—	円形	61	57	41	10YR2/2、10YR7/4 ローム含。
P116	—	楕円形	41	32	18	10YR7/4 ローム主体、10YR4/3 少含。
P117	—	楕円形	21	14	12	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。
P118	—	円形	58	57	57	10YR2/2、10YR7/4 ローム少含。
P119	—	円形	63	59	34	10YR2/2、10YR7/4 ローム少含、焼土含。
P120	—	円形	58	54	38	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P121	—	楕円形	55	49	39	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P122	—	円形	20	18	15	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P123	—	楕円形	23	20	14	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P124	—	楕円形	28	16	14	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P125	—	楕円形	25	21	18	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P126	—	楕円形	59	51	43	10YR4/3、10YR3/2、7/4 ローム含。
P127	—	楕円形	35	27	15	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P128	—	円形	65	61	47	10YR4/3、10YR7/4 ローム含。
P129	—	不整形	287	77	48	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。
P130	—	円形	27	25	14	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P131	—	楕円形	45	39	18	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P132	—	楕円形	30	25	12	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P133	—	不整形	91	61	36	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P134	—	楕円形	67	55	38	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P135	—	楕円形	36	24	16	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P136	—	不整形	58	38	18	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P137	—	楕円形	37	28	14	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P138	—	楕円形	40	33	21	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P139	—	楕円形	44	35	30	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P140	—	楕円形	43	38	47	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P141	P216 を切る	円形	57	52	19	10YR2/2、10YR7/4 ローム極少含。
P142	—	楕円形	98	62	38	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P143	—	楕円形	48	39	27	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P144	—	楕円形	75	59	48	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P145	—	楕円形	78	68	33	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P146	—	隅丸長方形	69	36	21	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P147	—	楕円形	64	58	32	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P148	—	楕円形	42	37	34	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P149	—	円形	41	43	50	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P150	P214 を切る	円形	42	38	28	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P151	—	楕円形	44	33	10	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P152	—	楕円形	59	48	24	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。
P153	—	円形	63	57	47	10YR4/3、10YR7/4 ローム少含。

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	備　　考
P154	P161 を切る	楕円形	67	57	40	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P155	—	楕円形	32	23	22	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。
P156	—	楕円形	41	32	21	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。
P157	—	楕円形	57	47	29	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P158	P213 を切る	円形	49	45	24	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P159	P213 を切る	円形	50	45	21	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P160	—	—	—	66	26	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P161	P154 に切られる		—	80	56	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P162	—	楕円形	42	35	47	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。
P163	—	楕円形	35	28	13	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。
P164	—	楕円形	67	56	26	10YR2/2、10YR7/6 ローム含。
P165	—	楕円形	45	37	42	10YR2/2、10YR7/6 ローム含。
P166	—	円形	45	42	33	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P167	—	楕円形	57	38	28	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P168	—	楕円形	54	38	22	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P169	—	楕円形	50	29	26	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P170	—	楕円形	44	34	22	10YR4/2、10YR2/2 ローム含。
P171	—	楕円形	55	43	24	10YR4/3、10YR2/2・7/4 ローム含。
P172	—	不整形	73	37	32	10YR4/3、10YR2/2・7/4 ローム含。
P173	—	楕円形	37	35	40	10YR3/2、10YR4/3・7/4 ローム少含。
P174	—	不整形	102	89	60	10YR4/2、10YR2/2 多含。
P175	—	楕円形	60	53	37	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P176	—	楕円形	52	46	23	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P177	—	楕円形	47	41	13	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P178	—	楕円形	46	41	22	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P179	—	楕円形	34	28	16	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P180	—	楕円形	49	36	22	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P181	—	楕円形	43	34	33	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P182	—	円形	39	38	39	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P183	—	楕円形	76	51	24	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P184	—	楕円形	34	27	13	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P185	—	円形	24	22	17	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P186	—	楕円形	30	23	8	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P187	—	楕円形	55	46	29	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P188	—	円形	33	32	19	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P189	—	楕円形	54	44	12	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P190	—	楕円形	73	44	26	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P191	—	円形	47	45	17	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P192	—	円形	32	29	10	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P193	—	楕円形	36	28	31	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P194	—	楕円形	56	52	28	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P195	—	楕円形	36	32	24	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P196	—	円形	41	41	15	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P197	—	円形	38	37	25	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P198	—	楕円形	66	58	14	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P199	—	楕円形	50	39	12	10YR4/2、10YR7/4 ローム含。
P200	調査区外に延びる	—	—	43	10	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P201	—	不整形	163	108	29	10YR3/2、10YR7/4 ローム少含。
P202	—	楕円形	35	26	21	10YR4/2、10YR7/4 ローム少含。

ピット計測表 (4)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	備　考
P203	—	楕円形	38	31	10	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P204	調査区外に延びる	—	67	—	26	10YR2/2。10YR7/6 ローム極少含。
P205	調査区外に延びる	楕円形	38	32	13	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P206	—	楕円形	67	57	21	10YR3/2。10YR7/4 ローム少含。
P207	調査区外に延びる	—	—	29	13	10YR3/2。10YR7/4 ローム少含。
P208	—	楕円形	43	37	32	10YR3/2。10YR7/4 ローム少含。
P209	—	楕円形	48	42	28	10YR3/2。10YR7/4 ローム少含。
P210	—	楕円形	42	30	24	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P211	—	楕円形	88	41	20	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P212	調査区外に延びる	—	—	23	13	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P213	P158・159に切られる	—	42	—	25	10YR4/3。10YR7/4 ローム少含。
P214	P150に切られる	—	—	51	51	10YR4/3。10YR7/4 ローム少含。
P215		楕円形	58	55	44	10YR2/2。10YR7/4 ローム少含。
P216	P141に切られる	楕円形	106	95	42	10YR2/2。10YR7/4 ローム少含。
P217	—	円形	34	33	21	10YR2/2。10YR7/4 ローム少含。
P218	P7に切られる	不整形	118	87	40	10YR3/2。10YR7/4 ローム少含。
P219	H5に切られる	—	—	—	36	10YR2/2。10YR7/4 ローム少含。

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	備　考
P220	H5に切られる	—	—	45	43	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P221	M1に切られる	楕円形	49	32	21	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P222	—	楕円形	66	62	54	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P223	—	楕円形	54	40	24	10YR2/2。10YR7/4 ローム少含。
P224	—	楕円形	50	39	32	10YR2/2。10YR7/4 ローム少含。
P225	—	楕円形	75	41	31	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P226	—	不整形	66	48	19	10YR2/2。10YR7/4 ローム少含。
P227	—	楕円形	58	51	47	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P228	—	楕円形	64	60	25	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P229	—	楕円形	52	47	52	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P230	—	楕円形	69	60	26	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P231	—	楕円形	59	37	20	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P232	—	楕円形	57	34	44	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P233	—	楕円形	61	54	28	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P234	—	楕円形	48	43	28	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P235	P9に切られる	—	—	36	16	10YR4/2。10YR7/4 ローム少含。
P236	H15に切られる	楕円形	58	51	29	10YR3/2。10YR7/4 ローム少含。

H 1 号住居址出土遺物観察表

No	器　種	器　形	法　量				成　形・調　整		備　考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内　面	外　面		
1	須恵器	坏蓋	—	—	＜1.4＞	—	ロクロナデ	叩目、天井部回転ヘラケズリ、つまみ貼付	完全実測	覆土
2	須恵器	甕	—	—	—	—	ナデ	叩目	破片実測、拓本	覆土

H 2 号住居址出土遺物観察表

No	器　種	器　形	法　量				成　形・調　整		備　考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内　面	外　面		
1	土師器	北武蔵型坏	(12.3)	(12.4)	＜2.8＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土
2	土師器	北武蔵型坏	(15.7)	(15.2)	＜3.4＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土
3	土師器	鉢	(2.0)	—	＜7.5＞	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	覆土
4	土師器	武蔵甕	21.3	10.2	32.3	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	覆土
5	土師器	甕	(22.0)	—	＜12.0＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土
6	土師器	武蔵甕	(24.0)	—	＜3.0＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土

H 3 号住居址出土遺物観察表

No	器　種	器　形	法　量				成　形・調　整		備　考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内　面	外　面		
1	須恵器	坏	(13.0)	(6.8)	3.5	—	ロクロナデ	回転糸切	回転実測	No2
2	須恵器	杓状坏	13.6	6.6	3.8	—	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	ケン
3	須恵器	坏	(14.0)	(6.5)	4.2	—	ロクロナデ	回転糸切、火襷	回転実測	覆土
4	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕→ナデ	叩目	破片実測、拓本	覆土
5	須恵器	壺	(5.7)	6.7	14.5	—	ロクロナデ	回転糸切、回転ヘラケズリ、付高台	完全実測	No1

H 4 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	北武蔵型坏	12.4	12.9	4.8	－	ヨコナデ	ヘラケズリ	完全実測	No1
2	土師器	坏	(12.7)	12.4	4.1	－	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	完全実測	No2
3	土師器	坏	(12.9)	(10.4)	＜3.7＞	－	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	覆土
4	土師器	坏	(17.9)	(16.0)	＜4.9＞	－	見込に放射暗文	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	覆土
5	土師器	壺	－	10.8	＜6.5＞	－	ヘラナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No2
6	須恵器	坏	－	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	ホリ
7	須恵器	坏	－	－	－	－	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	覆土

H 5 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	高坏	－	－	＜5.8＞	－	ヘラケズリ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ区
2	土師器	甕	17.7	2.5	16.5	－	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	No1
3	土師器	甕	＜20.0＞	－	＜26.0＞	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区・カマド・ホリ
4	土師器	甕	－	－	＜20.9＞	－	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	No4・Ⅱ区・カマド
5	土師器	壺	(17.8)	－	＜6.9＞	－	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	ケン
6	土師器	壺	(21.4)	－	＜5.3＞	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
7	須恵器	坏	10.0	6.7	3.9	－	ロクロナデ	ヘラケズリ	完全実測	No2
8	須恵器	有台坏	(14.4)	(10.4)	(3.8)	－	ロクロナデ	回転ヘラケズリ、付高台	回転実測	ケン
9	須恵器	高坏	15.0	10.5	12.0	－	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	No2
10	石器・石製品	編物石	10.0	5.8	3.3	＜101.8＞			完全実測	Ⅰ区
11	石器・石製品	磨石	3.4	4.9	3.6	＜22.2＞	磨面Ⅰ		完全実測	Ⅱ区
12	鉄器	鏃	＜13.9＞	＜0.8＞	＜0.4＞	＜15.3＞	茎部欠損		完全実測	No5

H 6 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	北武蔵型坏	(12.4)	(8.8)	＜2.9＞	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
2	土師器	武蔵甕	(13.2)	－	＜8.2＞	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	カマド
3	土師器	武蔵甕	(18.4)	－	＜5.2＞	－	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ・Ⅱ区
4	土師器	武蔵甕	－	3.6	＜3.4＞	－	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ区
5	土師器	武蔵甕	－	(3.8)	＜4.7＞	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
6	土師器	武蔵甕	－	(4.0)	＜9.7＞	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区・カマド
7	土師器	武蔵甕	－	7.3	＜3.7＞	－	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅰ・Ⅱ区
8	土師器	壺	(20.4)	－	＜8.9＞	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	No2・H7 カマド・Ⅰ区
9	須恵器	杯状坏	13.6	6.8	3.8	－	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	Ⅰ区・カマド
10	須恵器	坏	(14.0)	－	＜3.8＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ区
11	須恵器	坏	14.4	6.3	4.4	－	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No3
12	須恵器	有台坏	－	(12.0)	＜4.3＞	－	ロクロナデ	付高台	回転実測	Ⅱ区
13	須恵器	坏蓋	(7.8)	－	＜1.3＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅲ区ホリ
14	須恵器	甕	(28.4)	－	＜4.5＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅲ区
15	須恵器	壺	－	7.8	＜18.2＞	－	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	完全実測	No1

H７号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	北武蔵型坏	10.2	10.1	3.0	－	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	No6
2	土師器	北武蔵型暗文坏	(11.6)	(6.0)	3.7	－	ナデ→暗文	ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
3	土師器	北武蔵型坏	(12.2)	(12.5)	3.9	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
4	土師器	北武蔵型坏	(12.6)	(12.4)	3.8	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	No7・Ⅱ区
5	土師器	北武蔵型坏	13.2	13.5	4.3	－	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	No2・3
6	土師器	鉢	(10.8)	－	＜5.1＞	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	カマド
7	土師器	甕	(15.4)	－	＜3.7＞	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
8	土師器	壺	(18.2)	－	＜3.6＞	－	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	P4・Ⅱ区
9	土師器	壺	(18.6)	－	＜13.6＞	－	ナデ	ヘラミガキ	回転実測	No1
10	須恵器	坏	(11.4)	－	＜2.8＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅰ区
11	須恵器	坏蓋	(9.0)	－	＜1.5＞	－	ロクロナデ	天井部回転ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ・Ⅳ区
12	須恵器	坏蓋	－	2.0(つまみ径)	＜2.3＞	－	ロクロナデ	天井部回転ヘラケズリ、つまみ貼付	完全実測	Ⅱ区

H８号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	－	(8.0)	＜2.5＞	－	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区ホリ
2	土師器	武蔵甕	(24.2)	－	＜5.3＞	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区ホリ
3	土師器	武蔵甕	－	5.7	＜2.9＞	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
4	須恵器	坏	(12.2)	(6.4)	4.2	－	ロクロナデ	回転糸切、ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区
5	須恵器	坏	(14.4)	7.7	3.5	－	ロクロナデ、火襷	右回転糸切、ロクロナデ、火襷	完全実測	P1
6	須恵器	有台坏	－	(8.2)	＜2.6＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ、付高台	回転実測	Ⅲ区ホリ

H９号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(20.4)	(13.1)	＜6.9＞	－	暗文、煤付着	ヘラケズリ	回転実測	P7
2	土師器	甕	(13.0)	－	＜3.8＞	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区、ホリ
3	土師器	武蔵甕	(19.0)	(4.7)	(26.9)	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	No1、Ⅰ区
4	土師器	武蔵甕	(21.7)	－	＜19.1＞	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	No1、Ⅰ区
5	土師器	武蔵甕	－	4.3	＜12.2＞	－	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	No1、Ⅰ区
6	土師器	武蔵甕	－	(5.3)	＜8.6＞	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	No1
7	土師器	武蔵甕	－	－	＜15.3＞	－	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	No1、Ⅰ区
8	須恵器	坏	(12.5)	(6.4)	3.4	－	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅳ区、ホリ
9	須恵器	坏	13.2	8.0	3.7	－	ナデ	回転ヘラ切	完全実測	Ⅰ区
10	須恵器	坏	(14.5)	(16.7)	＜4.0＞	－	ナデ	ナデ	回転実測	ケン
11	須恵器	坏蓋	(16.1)	－	＜2.5＞	－	ナデ	天井部回転ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ・Ⅳ区
12	須恵器	甕	(35.2)	－	＜8.6＞	－	ナデ	叩目→ナデ	回転実測	Ⅲ区
13	須恵器	甕	－	－	－	－	ナデ	叩目→ナデ	破片実測、拓本	No1
14	石器・石製品	砥石	15.5	5.3	5.0	694.0	砥面１		完全実測	No2

H 10 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(12.8)	(6.0)	3.8	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
2	土師器	坏	(18.1)	(8.1)	7.2	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区
3	土師器	坏	—	—	—	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ、ヘラ記号	破片実測、拓本	Ⅱ区
4	土師器	武蔵甕	(11.2)	—	＜3.2＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
5	土師器	武蔵甕	(20.6)	—	＜9.3＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区
6	土師器	武蔵甕	(21.6)	—	＜9.0＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	No1、Ⅰ区
7	土師器	武蔵甕	—	(4.4)	＜18.5＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区、ケン
8	土師器	武蔵甕	—	5.0	5.4	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	Ⅳ区
9	須恵器	坏	(15.6)	(9.2)	4.0	—	ナデ	ヘラケズリ、ヘラ記号	回転実測、拓本	Ⅱ区
10	須恵器	坏	—	6.9	＜2.5＞	—	ナデ	ヘラケズリ、ヘラ記号	完全実測、拓本	Ⅰ区
11	須恵器	坏	—	(8.6)	＜2.0＞	—	ナデ	ヘラ切	回転実測	Ⅱ区
12	須恵器	有台坏	(12.8)	—	3.9	—	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅳ区
13	須恵器	有台坏	(13.6)	8.9	3.6	—	ナデ	回転糸切→付高台	完全実測	Ⅱ区、Ⅱ区ホリ
14	須恵器	有台坏	—	—	—	—	ナデ	ヘラケズリ、ヘラ記号	破片実測、拓本	Ⅰ区
15	須恵器	坏蓋	12.8	4.1	3.0	—	ナデ	天井部回転ヘラケズリ、つまみ貼付	完全実測	Ⅳ区
16	須恵器	坏蓋	(16.0)	2.5	3.7	—	ナデ	天井部回転ヘラケズリ、つまみ貼付	完全実測	カマド
17	須恵器	坏蓋	(16.4)	(2.8)	3.2	—	ナデ	天井部回転ヘラケズリ、つまみ貼付	回転実測	Ⅱ区
18	須恵器	坏蓋	—	(5.4)	＜1.4＞	—	ナデ	つまみ貼付	回転実測	ケン
19	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	平行叩目	破片実測、拓本	カマド、Ⅲ区
20	縄文土器	深鉢	＜7.3＞	＜5.0＞	＜2.2＞	＜138.3＞	ナデ	微隆起線、縄文	破片実測、拓本	覆土
21	石器・石製品	磨・凹石	11.0	7.2	4.5	167.4	凹1、全体に磨り		完全実測	Ⅳ区

H 12 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	北武蔵型坏	11.1	11.3	3.6	—	ナデ、煤付着	ヘラケズリ	完全実測	カマド、Ⅰ区
2	須恵器	甕	—	—	—	—	当具痕	叩目	破片実測、拓本	カマド

H 13 号住居址出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	—	(7.6)	＜3.1＞	—	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区ホリ
2	土師器	武蔵甕	(19.8)	—	＜16.8＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区、カマド
3	土師器	武蔵甕	(21.2)	—	＜7.2＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区、ケン
4	土師器	武蔵甕	22.0	4.9	28.0	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	No1
5	土師器	武蔵甕	—	(5.0)	＜3.2＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	カマド
6	須恵器	坏	(12.6)	(6.6)	(3.2)	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
7	須恵器	坏	(13.6)	7.0	3.7	—	ナデ、火襷	回転糸切	完全実測	Ⅱ・Ⅲ区
8	須恵器	坏	(13.6)	8.3	3.4	—	ナデ、火襷	回転ヘラ切	完全実測	Ⅰ区
9	須恵器	杓状坏	13.7	6.9	4.1	—	ナデ、火襷	右回転糸切、刻書	完全実測	カマド
10	須恵器	坏	(14.0)	(8.6)	(3.4)	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅳ区
11	須恵器	坏	(14.4)	(8.4)	3.8	—	ナデ、火襷	回転ヘラ切	回転実測	No2
12	須恵器	有台坏	(14.0)	—	＜3.0＞	—	ナデ	ナデ	回転実測	Ⅱ区、H12 Ⅱ区

H 13 号住居址出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
13	須恵器	有台坏	—	(10.2)	＜6.1＞	—	ナデ	回転ヘラケズリ→付高台	回転実測	Ⅱ・Ⅳ区
14	須恵器	坏蓋	(15.0)	—	＜2.4＞	—	ナデ	天井部回転ヘラケズリ	回転実測	カマド
15	須恵器	坏蓋	(18.0)	—	＜2.7＞	—	ナデ、火襷	天井部回転ヘラケズリ	回転実測	P1
16	須恵器	甕	—	—	—	—	ナデ	刷目	破片実測、拓本	Ⅱ区
17	石器・石製品	砥石	＜9.0＞	＜5.4＞	＜3.6＞	＜218.0＞	上部欠損、砥面 4		完全実測	Ⅲ区
18	鉄器	刀子	＜5.2＞	＜1.1＞	＜0.3＞	＜3.5＞	両端欠損		完全実測	Ⅱ区

H 14 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	北武蔵型坏	(10.8)	(10.8)	＜3.2＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
2	土師器	武蔵甕	—	—	＜11.0＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区、カマド
3	須恵器	坏	—	10.1	＜1.1＞	—	ナデ	ヘラケズリ	完全実測、転用硯？	No2
4	須恵器	有台坏	(13.2)	(9.0)	3.4	—	ナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区
5	須恵器	円面硯	14.8	—	＜3.3＞	—	ナデ	ナデ、脚部透かし 7 ヶ所	完全実測	No1
6	鉄器	刀子	＜7.3＞	＜1.1＞	＜0.3＞	＜6.4＞	両端欠損、一部分木質残存		完全実測	Ⅲ区

H 15 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	甕	(12.5)	—	＜5.3＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ区
2	土師器	武蔵甕	(21.4)	—	＜15.2＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	カマド
3	土師器	武蔵甕	—	(4.0)	＜2.2＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅰ・Ⅱ区
4	土師器	北野型甕	—	—	—	—	ハケメ	ハケメ	破片実測、拓本	Ⅰ・Ⅳ区
5	須恵器	坏	(15.4)	—	＜2.3＞	—	ロクロナデ、火襷	ロクロナデ、火襷	回転実測	Ⅳ区
6	須恵器	有台坏	(6.2)	—	＜3.1＞	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅱ区
7	須恵器	有台坏	—	—	＜1.8＞	—	ロクロナデ	ロクロナデ、高台欠損	回転実測	Ⅰ区
8	須恵器	甕	—	—	—	—	ナデ	刷目	破片実測、拓本	Ⅳ区
9	須恵器	甕	—	—	—	—	ナデ	刻書？	破片実測、拓本	Ⅲ区
10	石器・石製品	砥石	8.1	4.2	2.1	＜96.3＞	一部欠損、砥面 4		完全実測	Ⅲ区
11	石器・石製品	台石	30.5	23.8	6.3	5,200.0	使用面 1		完全実測	No1
12	石器・石製品	軽石製品	5.2	5.4	2.8	22.4	全体に擦り		完全実測	覆土
13	石器・石製品	磨石	5.1	4.6	2.6	80.1	磨面 2		完全実測	覆土
14	石器・石製品	磨石	＜6.8＞	＜4.9＞	＜3.0＞	＜124.9＞	磨面 3		完全実測	覆土

H 16 号住居址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	土師器	武蔵甕	—	5.4	＜9.6＞	—	ナデ	ヘラケズリ	回転実測	カマド
2	須恵器	坏	—	(7.6)	＜0.8＞	—	ロクロナデ	ヘラケズリ	回転実測	覆土

掘立柱建物址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
F4-1	須恵器	坏	(12.6)	(6.6)	3.5	－	ロクロナデ、火襷	回転ヘラケズリ、火襷	回転実測	P7
F7-1	土師器	高坏	－	－	＜4.9＞	－	ナデ	ヘラミガキ	回転実測	P1
F9-1	須恵器	甕	－	(5.2)	＜4.3＞	－	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転実測	P3

D３号土坑出土遺物観察表

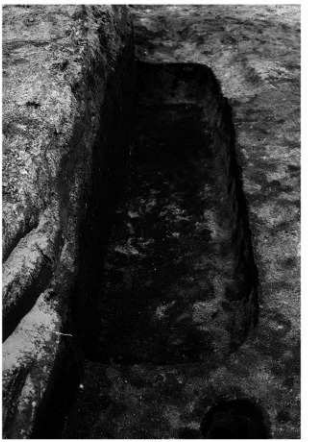
No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	須恵器	坏	(12.8)	(8.4)	(3.7)	－	ロクロナデ	回転ヘラ切	回転実測	W 区
2	須恵器	坏	(12.8)	(8.4)	3.8	－	ロクロナデ	回転ヘラ切	回転実測	E・W 区
3	須恵器	坏	13.5	7.1	3.7	－	ロクロナデ	回転ヘラ切	完全実測	E 区
4	須恵器	坏	13.7	6.9	3.8	－	ロクロナデ	右回転糸切、火襷	完全実測	W 区
5	須恵器	坏	14.2	8.4	4.1	－	ロクロナデ、火襷	回転ヘラ切、火襷	完全実測	E 区
6	須恵器	有台坏	(13.6)	(10.2)	3.9	－	ロクロナデ	回転ヘラケズリ、付高台	回転実測	E 区
7	須恵器	有台坏	(14.2)	(10.4)	(3.8)	－	ロクロナデ	回転ヘラケズリ、付高台	回転実測、拓本	W 区
8	須恵器	有台坏	15.5	10.3	6.4	－	ロクロナデ	回転ヘラケズリ、付高台、ヘラ記号	完全実測、拓本	E 区
9	須恵器	有台坏	(15.8)	－	＜6.1＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	W 区
10	須恵器	有台坏	－	(9.4)	＜2.4＞	－	ロクロナデ	ヘラケズリ、付高台	回転実測	E 区
11	須恵器	坏蓋	－	－	＜1.8＞	－	ロクロナデ	天井部回転ヘラケズリ	回転実測	E 区
12	須恵器	坏蓋	－	－	＜2.8＞	－	ロクロナデ	天井部回転ヘラケズリ	回転実測	E 区
13	須恵器	甕	22.2	－	＜26.8＞	－	当具痕、ナデ	平行叩目	完全実測	E・W 区
14	須恵器	甕	－	10.8	＜6.4＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	W 区
15	須恵器	甕	－	－	＜8.0＞	－	当具痕、ナデ	平行叩目	回転実測	E 区
16	須恵器	甑	－	－	－	－	ナデ	ナデ	破片実測	E 区

M１号溝址出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	須恵器	坏	－	(5.9)	＜1.9＞	－	ロクロナデ	回転糸切、火襷	回転実測	覆土
2	須恵器	有台坏	－	(5.8)	＜1.3＞	－	ロクロナデ	回転糸切、付高台	回転実測	覆土
3	須恵器	有台坏	－	(9.0)	＜1.5＞	－	ロクロナデ	回転ヘラケズリ、付高台	回転実測	覆土
4	石器・石製品	石鹸	2.8	1.7	0.35	1.5	－		完全実測	覆土

遺構外出土遺物観察表

No	器種	器形	法量				成形・調整		備考	出土層位
			口径（長）	底径（短）	器高（厚）	重量等	内面	外面		
1	須恵器	平瓶？	(11.8)	－	＜6.3＞	－	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	表彩



H 1 号住居址

H 2 号住居址

H 3 号住居址

H 4 号住居址

H５号住居址

H５号住居址カマド

H６号住居址カマド

H６号住居址

H７号住居址カマド

H７号住居址

H 8 号住居址

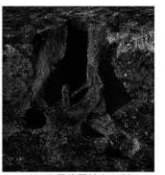
H 9 号住居址

H 10 号住居址

H 12 号住居址

H 13 号住居址

H 13 号住居址カマド



H 12 号住居址カマド

H 14 号住居址カマド→

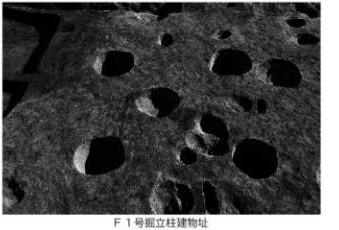
H 14 号住居址完掘↑

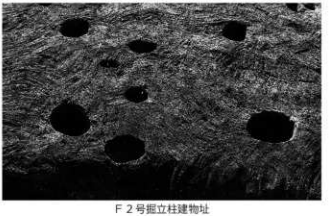
遺物出土状況→

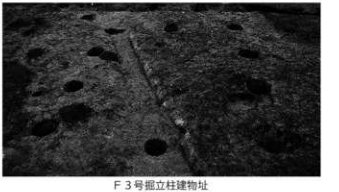
H 15 号住居址

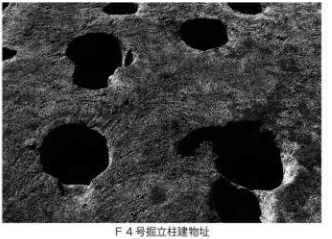
H 15 号住居址カマド

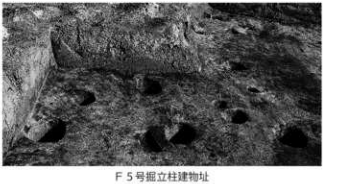
H 16 号住居址

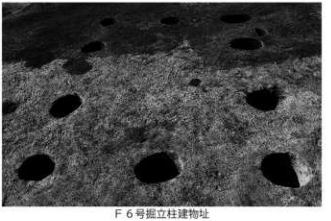

F 1 号掘立柱建物址


F 2 号掘立柱建物址


F 3 号掘立柱建物址


F 4 号掘立柱建物址


F 5 号掘立柱建物址

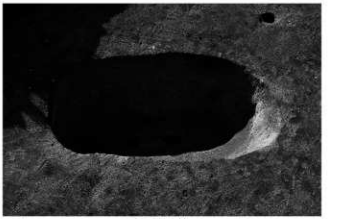

F 6号掘立柱建物址

F 7号掘立柱建物址

F 8号掘立柱建物址

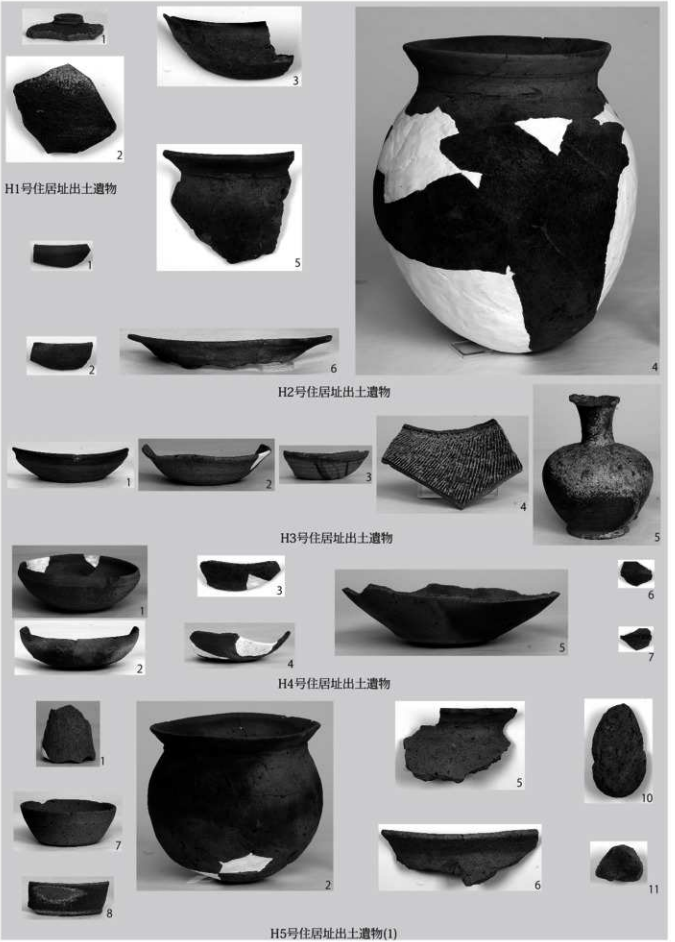
F 9号掘立柱建物址

F 10号掘立柱建物址


D 1号土坑

D 2号土坑

D 3号土坑



H1号住居址出土遺物

H2号住居址出土遺物

H3号住居址出土遺物

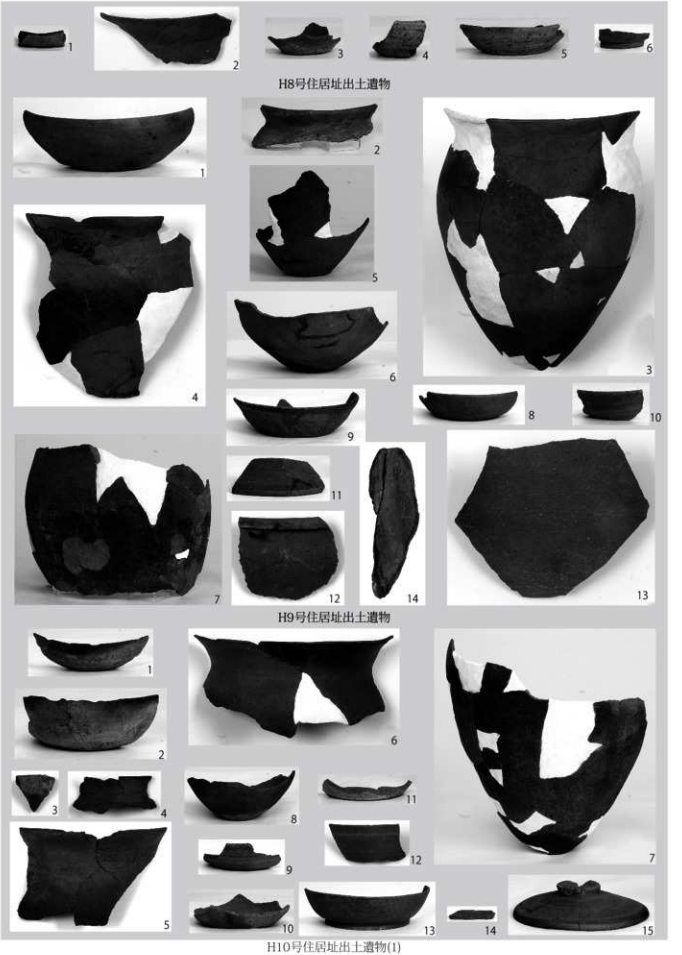
H4号住居址出土遺物

H5号住居址出土遺物(1)

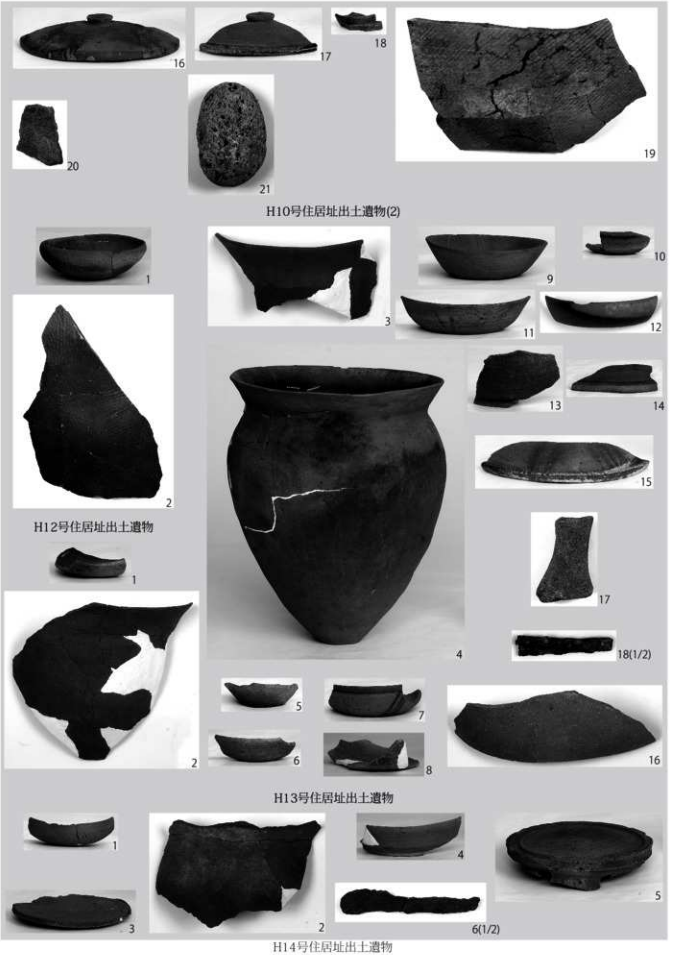
H5号住居址出土遺物(2)

H6号住居址出土遺物

H7号住居址出土遺物



H10号住居址出土遺物(1)



H14号住居址出土遺物

H15号住居址出土遺物

H16号住居址出土遺物

掘立柱建物址出土遺物

D3号土坑出土遺物

M1号溝址出土遺物

遺構外出土遺物

D３号土坑出土獣骨

ふりがな	まえだいせきぐん　まえだいせき　ろく
書名	前田遺跡群　前田遺跡　Ⅵ
副書名	
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 264 集
編著者名	小林眞寿
編集機関	佐久市教育委員会　文化振興課
所在地	長野県佐久市中込 2913　℡ 0267-63-5321　FAX0267-63-5322
発行年月日	令和２年（2020）３月

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
まえだいせきろく 前田遺跡Ⅵ	さくしおたいあざまえだ 佐久市小田井字前田 329-1、332、333-1、343-5	20217	2	36° 18'28"	138° 28'58"	平成 30 年 11 月 15 日 ～ 12 月 11 日	1,063.67㎡	工場新築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
前田遺跡Ⅵ	集落址	弥生・古墳・奈良・平安	竪穴住居址 -16 棟 掘立柱建物址 -10 棟 土坑 -3 基 溝址 -1 条 ピット -236 基	土師器　須恵器 石器・石製品 鉄器 獣骨	奈良時代の張り出し部を有する特異な形態の竪穴住居址から、脚部分は欠損するものの、硯面がほぼ完形の円面硯が１面出土した。
要約	古墳時代後期（7 世紀）に成立した計画集落の調査。				

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第 264 集

前田遺跡群　前田遺跡Ⅵ

2020 年 3 月
編集・発行　佐久市教育委員会
〒 385-8501　長野県佐久市中込 3056
社会教育部　文化振興課　文化財事務所
〒 385-0051　長野県佐久市中込 2913
℡ 0267-63-5321
印刷所　キクハラインク有限会社